



学内広報

No.1325

2005.12.8

東京大学広報委員会

2004年（第54回）学生生活実態調査の結果



柏図書館（柏キャンパス）

ま え が き

昨年度に実施された第54回学生生活実態調査の結果を、学内広報にて広くお知らせいたします。

この調査は昨年度、5年ぶりに対象者を大学院生と純“ハード面・ソフト面での研究・学生生活のサポート体制について力点を置いて”が浮かび上がっていることは本文をご覧ください。研究科により大きな差のあるデータは研究科ごとに明示しました。それぞれの研究科で検討していただける材料になればと考えております。

さらに「特殊分析」として「東大生の人生観について」を教育学研究科の亀口憲治委員に執筆いただきました。東大の院生にとっての研究・職業や人生の目標は、研究や学生生活のサポートによって大きく影響を受けることが考えられます。この点について特に検討していただきました。

この調査の企画、実施、分析は、学生生活調査室の各室員である教員や調査室に関わる学生部キャリアサポートグループのご尽力なしには実現しませんでした。この場を借りてお礼申し上げます。

東京大学は大学院重点化を果たした大学として、大学院生に対する教育、彼らの研究や心身の健康の向上にも大いに気を配るべきですが、その観点から見ると、大学院生に対する学生生活実態調査の頻度は決して多くありません。この機会に得られたデータをフルに活用されることを願ってやみません。

東京大学学生生活委員会学生生活調査室室長 池田 謙一

目 次

調査の概要…………… 調査の結果…………… 第1部 学生生活の評価と将来の選択 1 大学院入学の目的…………… 2 学会参加…………… 3 研究活動…………… 4 就職……………1 5 研究・学生生活のサポート体制……………	第2部 学生生活の背景 1 家庭の状況…………… 2 生活費の状況…………… 3 研究奨励金及び奨学金…………… 4 アルバイト…………… 資料1 (集計表)…………… 具体的記述 (抜粋)…………… 資料2 (調査票)…………… 学生生活委員会学生生活調査室……………
	0

調査の概要

1. 調査票の作成

00年(平成1年)5月から10月にかけて、学生生活委員会学生生活調査室で調査内容の企画立案を行った。

2. 調査の期間

00年(平成" 嵐例異麻始詔述

調査の結果

今回は、1年(第4回)調査以来5年ぶりに、大学院男子・女子学生を対象として学生生活実態調査を行った。これまでの学生生活実態調査のうち、大学院学生を対象としたものは、第9回(1年)、第11回(10年)、第1回(1年)、第回(1年)、第回(1年)、第4回(1年)、第4回(1年)の計回があり、「表1」に1年以降の調査の実施状況を表示した。

なお、集計結果の分析に当たっては、研究科間・年度間・男女間などの相違に注目し、特異な数値傾向の把握に努めた。

グラフと表について

1. 今回、本文に掲載した経年変化のグラフと表については、今回の調査結果との比較の目的で1年調査にまでさかのぼって取り上げた項目がある。
2. 本文中に掲げたグラフについては、それぞれの年の比較を見やすくするため「無回答」及び「その他の分類」の項目について若干の数値を省略したものがある。そのため、合計が100%に満たないものもある。また、個々の数値を四捨五入しているため、合計が100%に満たないものと100%を超えるものがある。
3. 各表の00年の集計結果は、太枠で示してある。

表1 学生生活実態調査（大学院学生）実施状況

回数	調査年月	対象学生	抽出率	対象者数	回収率	調査方法
第9回	1958年12月	課程在籍者	男子 1/5 女子 1/5	248人	95.6%	面接調査 (一部郵送)
第11回	1960年11月	課程在籍者 + 留年者	男子 1/3 女子 全数 留年者 全数	785	85.2	"
第17回	1966年12月	課程在籍者	全 数	3,002	48.7	研究科窓口配布 (一部郵送)
第28回	1978年12月	課程在籍者	男子 1/4 女子 全数	1,177	66.2	郵送自記式
第35回	1985年11月	課程在籍者 + OM、OD	男子 1/2 ~ 1/4 女子 1/2 OM、OD 1/2	1,382	66.3	"
第42回	1992年11月	課程在籍者	男子(文) 1/2 男子(理) 1/6 女子 1/2	1,496	59.8	"
第49回	1999年11月	課程在籍者 + OM、OD	男子 1/4 女子 1/4	2,099	49.5	"
第54回	2004年11月	課程在籍者	男子 1/4 女子 1/4	2,539	40.6	"

(注1) 「OM」はオーバーマスター、「OD」はオーバードクターの略を示す。

(注2) 「休学者」「外国人留学生」は、対象学生から除かれている。但し、1992年調査は「OM、OD」を除き「外国人留学生」を含む。

第1部 学生生活の評価と将来の選択

1. 大学院入学の目的

大学院入学の目的は、前回調査（1999年（第49回））と同様に「高度の専門知識・技術を身につけるため」が75.2%でもっとも多くなり、次いで「大学等の研究・教育職をめざして」41.7%、新たな選択項目の「社会で貢献できる能力・資質を身につけるため」が29.5%、「学位を取得するため」が25.8%の順となっている（資料1-1-1表）。

東大入学の動機については、前回調査では主たる動機を重視した順に、第1位から第3位まで調査したが、今回は順位をつけずに、主たる動機を無順位に三つまで選択可として調査した。したがって比較するには注意が必要であるが、前回調査の第1位に限って比較すると、前回調査と同様「自分の志望した研究科（専攻分野）があったから」が70.8%

2 . 学会参加

学会（国内）の「所属数」1.2、「参加数」1.6回、「発表数」0.9件
海外学術調査の経験「ある」15.1%、留学の経験「ある」3.6%
留学希望者60.7%、留学希望先は希望者のうち「北米」79.6%、「西ヨーロッパ」78.3%

2 - 1 . 学会参加

現在所属している国内の学会数は、「1」が36.9%、「2」18.5%、「3～4」9.5%、「5以上」1.4%となっている。前回調査（1999年（第49回））と同様に、理科系は文科系に比べ多くの学会に所属しており、また、博士課程在籍者の7割以上が何らかの学会に所属している。国内に比べ国外の学会に所属している者は、あまり多くはみうけられず、「1」が7.9%で、それ以上は極めて少ない（資料1 - 2 - 1～2表）。

過去1年間の国内の学会参加回数は「1回」27.5%、「2回」24.3%、「3～5回」が17.5%で、発表件数は「1件」27.0%、「2件」13.3%、「3～4件」が7.2%である。また、国外の学会参加回数は「1回」14.3%、「2回」3.4%で、発表件数は「1件」12.6%、「2件」2.3%である（資料1 - 2 - 3～6表）。

2 - 2 . 留学等

大学院入学後、海外学術調査の経験が「ある」と答えた者は15.1%で前回調査と比較して、1.8ポイントの増加となっている。これは修士課程在籍者（9.8%）より博士課程在籍者（24.8%）で多くみられ、15ポイントの差がある。また、女子19.8%は男子13.2%に比べて海外学術調査の経験者が多い傾向である（資料1 - 2 - 7表）。

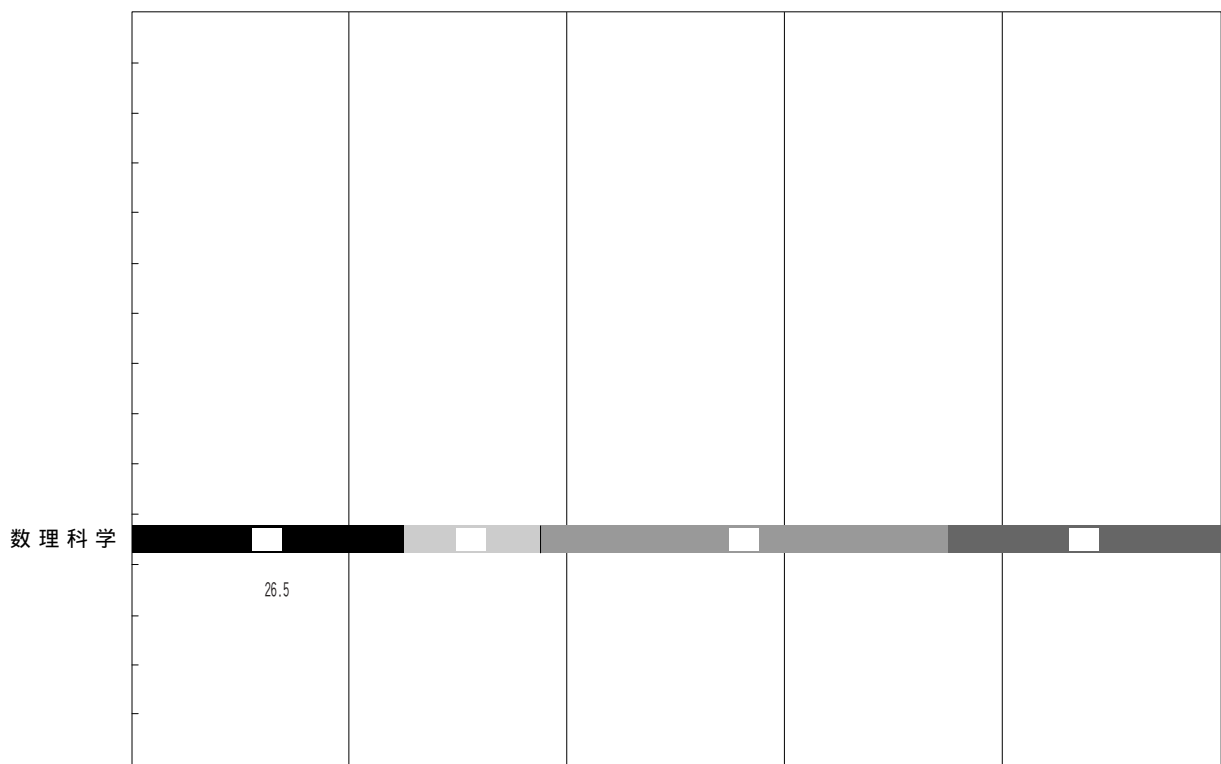
「大学院に入学してから海外留学をした体験がありますか」という問に、「ある」と答えた者は、全体で3.6%となっている。前回調査と比べて、0.8ポイントの増加となっている。また、海外学術調査の経験と同様、博士課程在籍者と女子に多めにみうけられる（資料1 - 2 - 8表）。

「外国の大学と交換留学制度があれば留学したいと思っていますか」という問に、「条件によっては留学したい」77.9%（男子75.3%、女子84.2%）が回答しており、前回調査より0.4ポイント減少している（資料1 - 2 - 9表）。

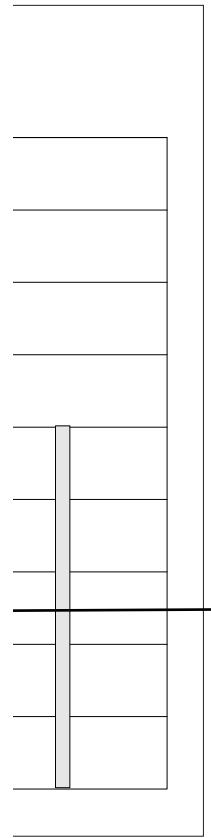
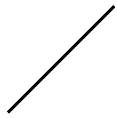
交換留学制度があれば留学先としてみたい地域は、前回調査では主たる地域を重視した順に、第1位と第2位を調査したが、今回は順位をつけずに、主たる地域を無順位に二つまで選択可として調査した。その結果、前回調査の第1位と同様「北アメリカ」が79.6%、次いで、「西ヨーロッパ」78.3%、「アジア」12.6%の順となり欧米重視の傾向が窺われる（資料1 - 2 - 10表）。

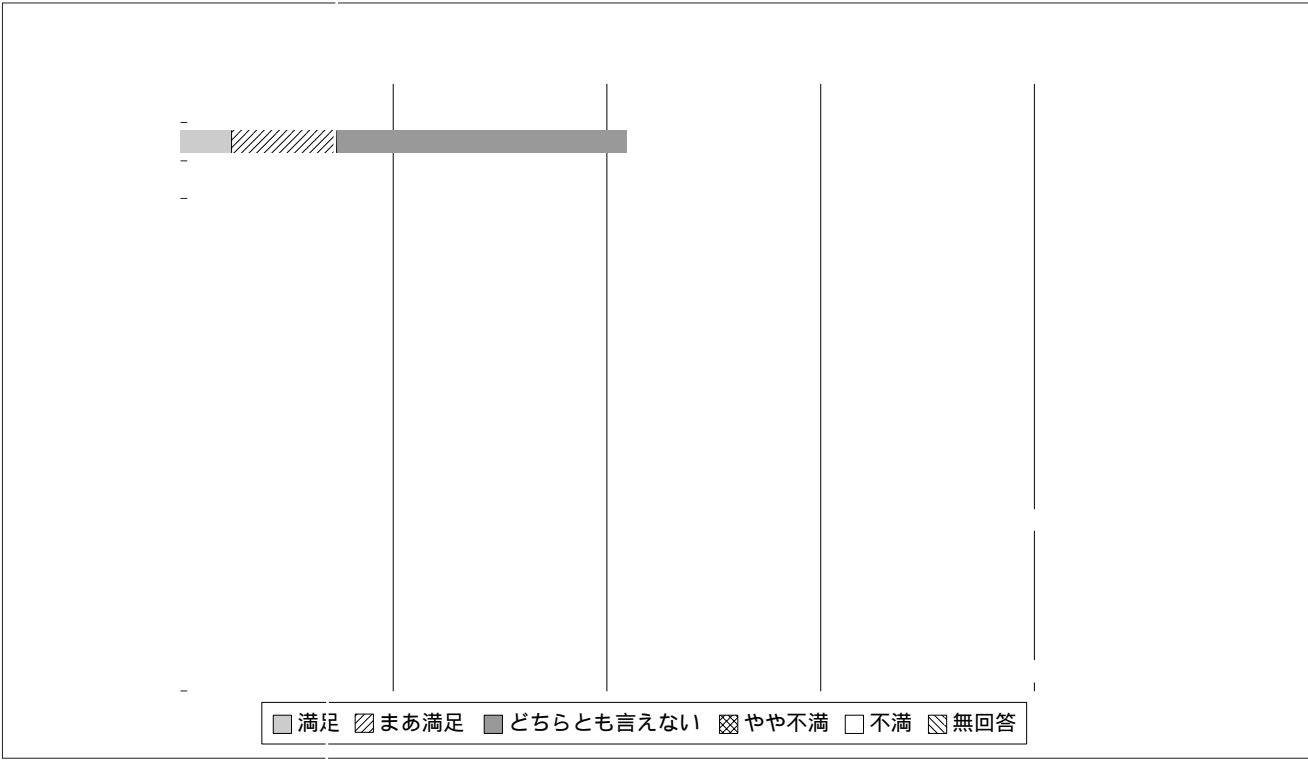
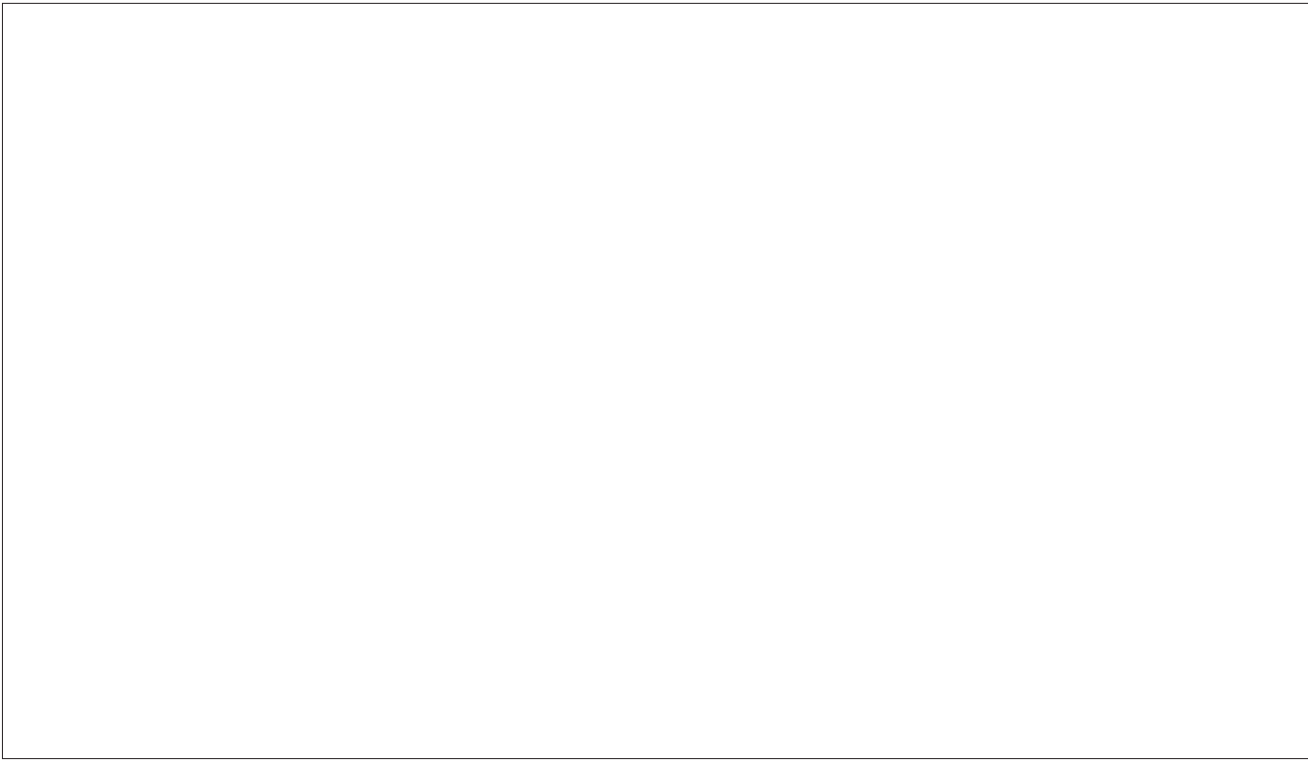
「大学院在学期間中、海外留学の機会があれば希望しますか」という問に、「留学したい」35.5%、「どちらかといえば留学したい」が25.2%となっており、女子の場合、これら双方を合わせると7割を占める。（図2 - 1～2、資料1 - 2 - 11表）。研究科により留学希望に濃淡があり、希望の多いところは、教育学(77.0%)、「留学したい」「どちらかといえば留学したい」の計)、農学生命科学(73.7%)、総合文化(70.0%)、人文社会系(67.9%)などとなっていた。

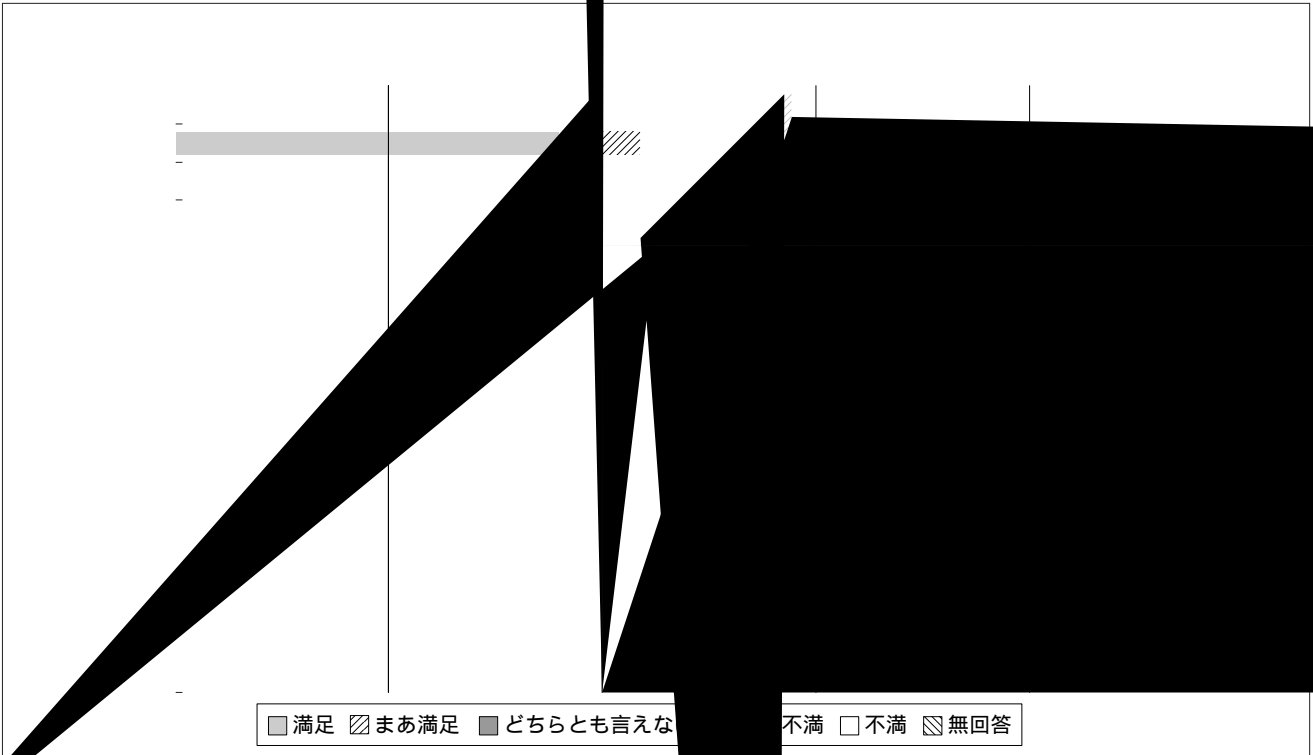
図 2 - 2 大学院在学中の海外留学希望（研究科別）







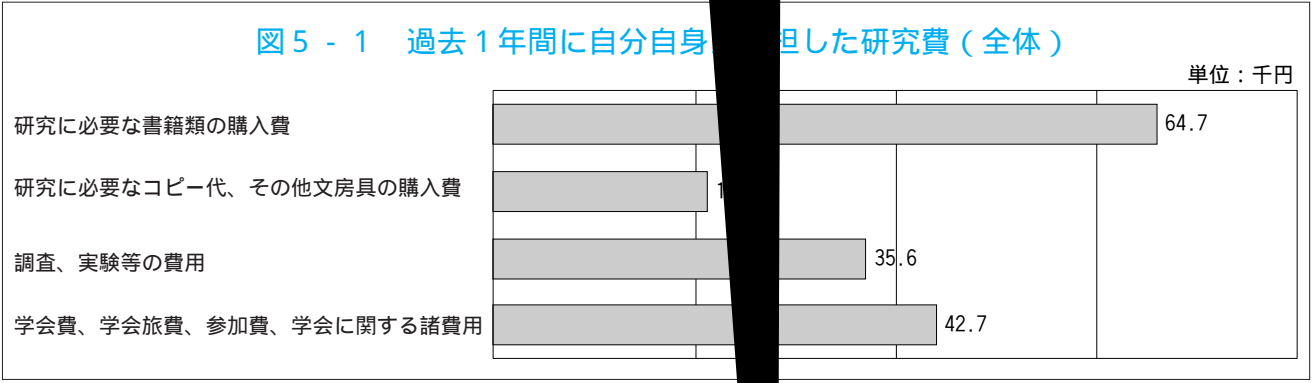




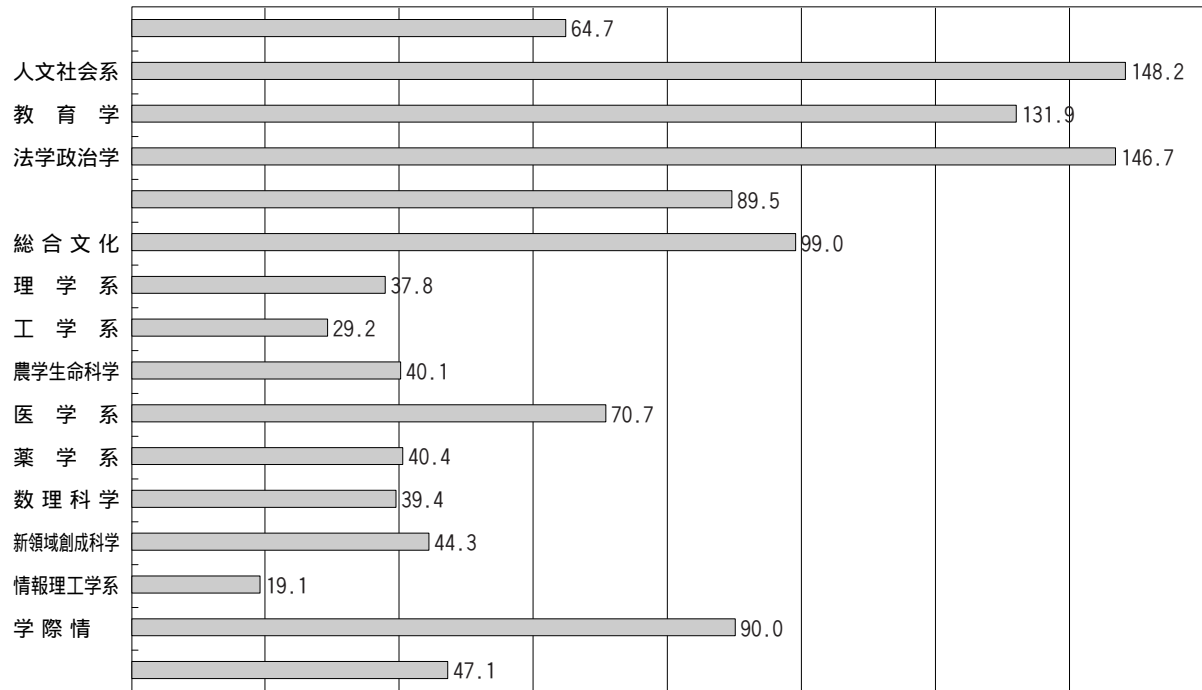
「あなたの研究にあなた自身が負担しているお金は過去1年間に比べてどのくらいですか」という問いに、平均169,100円と回答されている。獣医学又は医学を履修する博士課程在籍者の負担額より増えており、また、文科系は理科系に比べて負担額が多くなっている。特に文科系では、法学部政治学研究科と公共政策学教育部を除き、各研究科とも「50万円未満」が多い。自分が負担した研究費のうち、「研究に必要な書籍類の購入費」平均19,800円、「調査、実験等に関する諸費用」平均42,700円、「その他」平均22,500円となつて

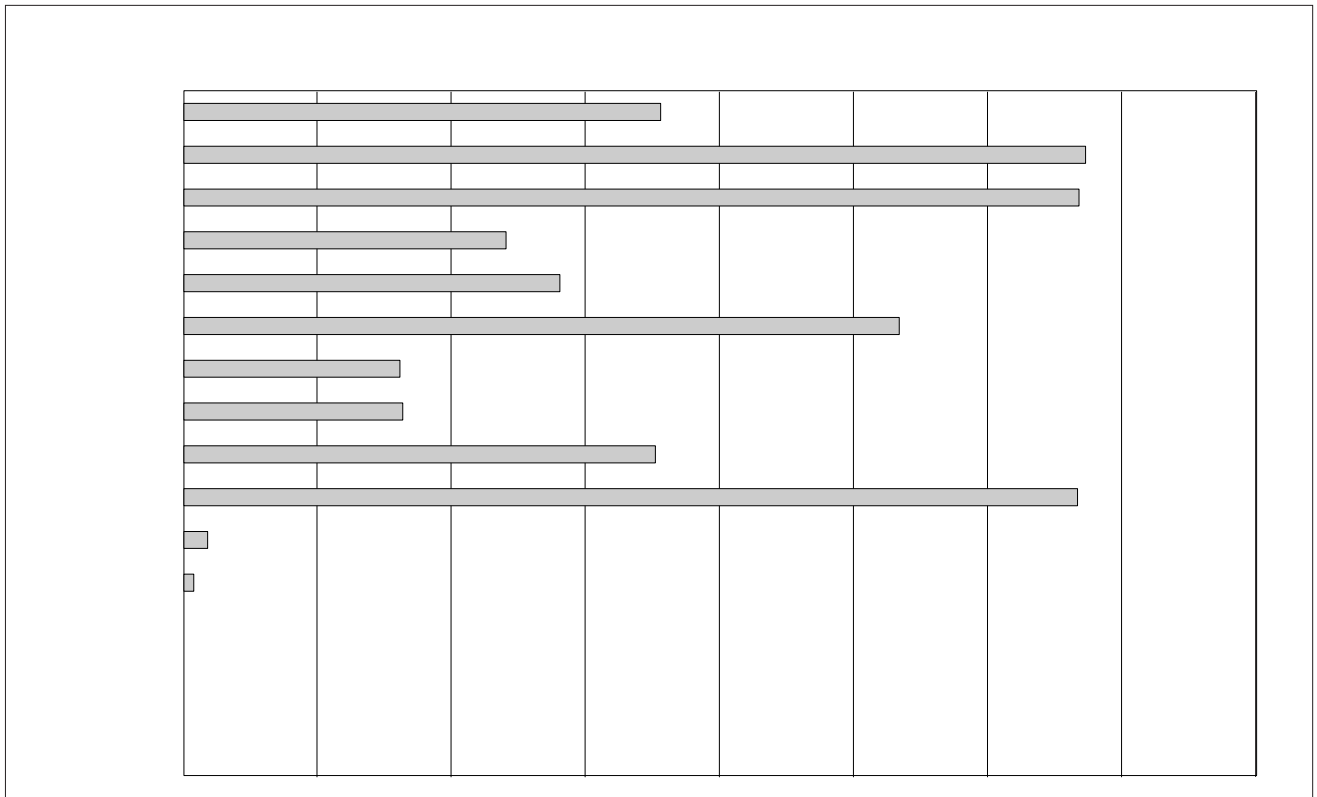
「あなたの研究にあなた自身が負担しているお金は過去1年間に比べてどのくらいですか」という問いに、平均169,100円と回答されている。専門職学位課程在籍者、修士課程在籍者、博士課程在籍者の負担額より増えており、また、文科系は理科系に比べて負担額が多くなっている。特に文科系では、法学部政治学研究科と公共政策学教育部を除き、各研究科とも「50万円未満」が多い。自分が負担した研究費のうち、「研究に必要な書籍類の購入費」平均19,800円、「調査、実験等に関する諸費用」平均42,700円、「その他」平均22,500円となつて

図5 - 1 過去1年間に自分自身が負担した研究費（全体）



単位：千円





「大学、短大などの非常勤講師或いはT A、R Aをしていますか」(「T A」はTeaching Assistantの略、「R A」はResearch Assistantの略)という問に、「していない(したことがない)」者が54.7% (前回調査60.3%)と多く、「過去にしたことがある」が18.2%となっている。「現在している」と回答があったのは26.7%で、前回調査よりも10.1ポイント増加した。また、男女別にみると男子の割合が多く、課程別では博士課程在籍者が占める割合が多めとなっている(資料1-3-9表)。

「研究室に、あなたの専用又は共用の机はありますか」の問に、「専用の机がある」74.0%、「共用の机がある」

11.5%と回答している。理科系では「専用の机がある」が93.6%を占めているが、文科系では「どちらもない」が42.8%

4 . 就職

修士課程修了後の進路の第

6 . 大学への要望

大学への要望は、これまで自由記述による調査を行ってきたが、今回は大学の法人化後、初めて大学院学生に対して行うことから、前年（2003年）に行った学部学生に対する設問と同様の内容とした。

大学の社会的貢献や国際化を推進するための関連する事項は、「非常に重要」「かなり重要」「重要」を総じてみると、社会的貢献を促進するための事項は、前年学部調査と同様に「基礎研究を充実させる」91.8%（前年学部88.0%）、「産学協同をより推進する」83.2%（前年学部79.7%）が前年の学部学生調査と同様に上位となっている。一方、「授業の外部開放を進める」は「あまり重要でない」「ほとんど重要でない」を合わせると、40.5%（前年学部39.8

.0

7．特殊分析（東大生の人生観について）

担当 亀口憲治

7 - 1．調査のねらい

これまでに実施された過去53回の調査では、東大生の「人生観」について直接に問いかける項目が設定されたことはなかった。そこで、今回は大学院生のみを対象とした調査ではあるものの、東大生の人生観を知る何らかの手がかりを得ることをねらいとした。また、調査の実施時期が法人化の初年度と重なった点でも、歴史的な意味を持つのではないだろうか。本調査を通じて東大生の人生観を知ることが、本学における学生生活のいっそうの改善を図る上でも、貴重な示唆を得ることが期待される。

7 - 2．東大院生にとっての研究

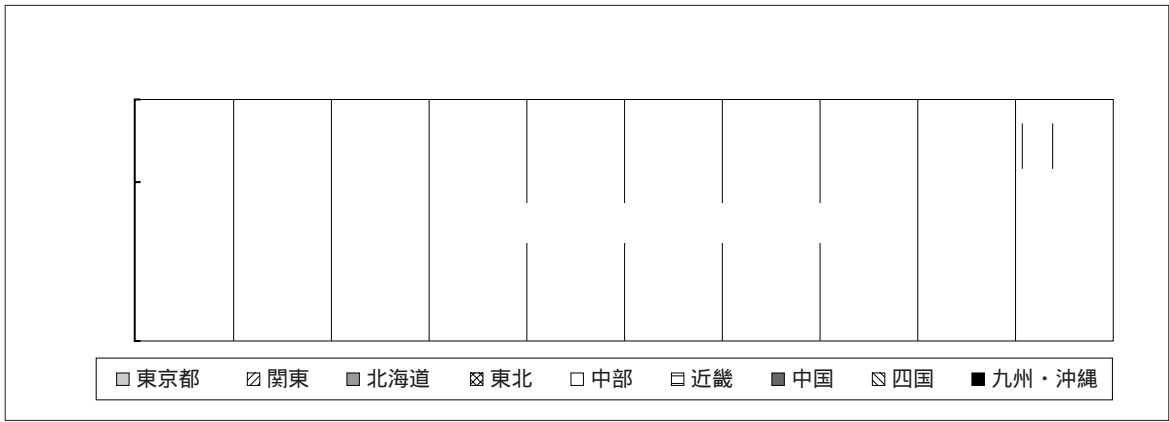
大学院入学の目的は、前回調査（1999

第2部 学生生活の背景

1. 家庭の状況

実家の所在地は、「東京都」25.6%、東京都以外の「関東」が34.4%、合計すると60.0%で、前回調査（1999年（第49回））と比較して10.9ポイントの減少、特に「東京都」の減少が目立つ。男女別では、「東京都」と「関東」で男子の57.0%に対し、女子は67.4%で前回調査と同様男子を上回っている（図11-1～2、資料1-8-1表）。

大学院学生のうち、独身者は85.4%（前回調査84.20%）







3 . 研究奨励金及び奨学金

4 . アルバイト

過去1年間にアルバイトを経験していると71.7%が回答しており、「継続的」(1ヶ月以上)アルバイトをした者が多く、既婚者では「継続的」アルバイトの経験者が46.0%(前回調査(1999年(第49回))44.8%)となっている。男女別にみると、男子49.8%に対し、女子は49.7%で前回調査と同様若干ながら女子が男子を上回っている(資料1-11-1表)。

アルバイトの種類(2つまで選択可)は、「T A・R A」(新設、「T A」はTeaching Assistantの略、「R A」はResearch Assistantの略)は39.0%がもっとも多く、次いで「家庭教師」20.0%、「塾・予備校の講師」19.1%、「研究事務補助」(新設)13.9%の順となっている。男女別にみると、「T A・R A」は男子41.8%、女子32.1%でもっとも多く選択している。博士課程は特に依存度が高く6割に達している(図16、資料1-11-2表)。

アルバイトに費やした1週間当たりの平均時間は、12.3(男子12.4、女子11.9)時間で、1か月当たりの平均収入額は68,900(男子70,600、女子64,700、女子俵

集 計 表

ここでは、「調査票」のそれぞれの設問項目と、所要な基本項目とのクロス集計を行ったものを一括して順次掲載した。また、比較のため1999年（第49回）の大学院学生調査、2003年（第53回）の学部学生調査で、今回調査と同じ設定をしている調査項目の数値を、適宜、各集計表の中で（ ）内に示した。

表の見方

- 1. 百分率（パーセント）表示については、小数点第一位までを有効数字として算出した。
- 2. 平均値の算出は、無回答の者を除く該当者平均を求めた。
- 3. 作表の説明変数として用いた用語の定義は、次のとおりである。
 「全体」………回答者全員の比率を示す。
 「文科系」「理科系」……在籍する研究科等により二つの系に区分したものを示す。

1 - 1 表 大学院に入学した目的

(2つまで選択)

区 分	高度の専門知識・技術を身につけるため %	大学等の研究・教育職をめざして %	企業の研究職をめざして %	学部卒業時点で就職の機会がなかったから %	現在の仕事に生かすため %	学位を取得するため %	社会に貢献できる能力・資質を身につけるため %	特に目的はない %	その他 %	無回答 人	事例数 人
1999年	.7	10.9	3.4	3.1	25.8	29.5	1.6	2.3	0.7	1,031	
男子	10.7	3.4	5.0	26.5	27.2	0.7	2.7	1.3	298		
女子	33.1	16.6	5.3	18.5	34.0	2.1	2.8	0.6	529		
その他	59.2	5.4	1.2	2.2	31.7	21.8	1.2	1.2	0.7	404	
獣医学又は医学を履修する博士課程	58.7	30.4	2.2	-	26.1	60.9	17.4	-	-	-	46
専門職学位課程	90.4	3.8	1.9	3.8	5.8	23.1	53.8	-	7.7	1.9	52
文科系	73.9	61.5	2.0	3.3	2.0	21.4	21.4	1.0	3.3	1.7	299
理科系	75.7	33.6	14.5	3.4	3.6	27.6	32.8	1.8	1.9	0.3	732

2項目選択のため100%を越える。

区 分	希望専攻分野が	東大の方がネーム	外国で勉強・生活	希望地域の治安等
-----	---------	----------	----------	----------

2 - 1表 現在所属している日本国内の学会数

区分	なし %	1学会 %	2学会 %	3学会 %	4学会 %	5学会 %	6学会 %	7学会 %	8学会 %	9学会以上 %	無回答 %	合計 %	事例数 人	平均値 回
1999年(49回)	(26.0)	(39.3)	(19.9)	(6.6)	(3.9)	(1.2)	(0.7)	(0.4)	(0.2)	(0.1)	(1.8)	(100.0)	(1,038)	
全体	31.1	36.9	18.5	7.4	2.1	0.9	0.2	0.1	0.1	0.1	2.6	100.0	1,031	1.2
男子	31.7	38.1	17.2	7.1	2.0	0.8	0.1	-	0.1	0.1	2.7	100.0	733	1.1
女子	29.9	33.9	21.8	8.1	2.3	1.0	0.3	0.3	-	-	2.3	100.0	298	1.2
修士課程	45.6	39.5	10.0	1.5	0.2	0.2	-	-	-	-	3.0	100.0	529	0.7
博士課程	7.7	39.9	31.4	15.3	3.2	1.0	0.5	-	0.2	0.2	0.5	100.0	404	1.7
獣医学又は医学を履修する博士課程	17.4	19.6	23.9	13.0	15.2	8.7	-	2.2	-	-	-	100.0	46	2.3
専門職学位課程	78.8	1.9	-	-	1.9	-	-	-	-	-	17.3	100.0	52	0.1
文系	40.8	25.8	14.7	9.7	2.3	1.0	0.3	-	-	0.3	5.0	100.0	299	1.1
理系	27.2	41.4	20.1	6.4	2.0	0.8	0.1	0.1	0.1	-	1.6	100.0	732	1.2

区分	なし %	1学会 %	2学会 %	3学会 %	4学会 %	5学会 %	6学会 %	無回答 %	合計 %	事例数 人	平均値 回
1999年(49回)	(86.9)	(7.0)	(0.8)	-	(0.3)	-	-	(92.6)	(100.0)	(894)	
全体	80.5	7.9	1.0	0.1	0.1	0.1	0.1	10.3	100.0	1,031	0.1
男子	81.2	7.9	1.0	0.1	-	0.1	0.1	9.5	100.0	733	0.1
女子	78.9	7.7	1.0	-	0.3	-	-	12.1	100.0	298	0.1
修士課程	86.2	3.0	0.8	-	-	-	-	10.0	100.0	529	0.1
博士課程	74.3	14.1	1.2	0.2	-	0.2	0.2	9.7	100.0	404	0.2
獣医学又は医学を履修する博士課程	67.4	17.4	2.2	-	2.2	-	-	10.9	100.0	46	0.3
専門職学位課程	82.7	-	-	-	-	-	-	17.3	100.0	52	0.0
文系	80.3	6.4	1.0	-	-	-	0.3	12.0	100.0	299	0.1
理系	80.6	8.5	1.0	0.1	0.1	0.1	-	9.6	100.0	732	0.1

区分	なし	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回以上	無回答	合計	事例数	平均値
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	回
1999年(49回)	(23.8)	(28.4)	(23.5)	(10.7)	(5.8)	(2.8)	(0.9)	(0.3)	(0.4)	(0.2)	(3.3)	(100.0)	(1,038)	
全体	25.7	27.5	24.3	10.5	4.4	2.6	1.0	0.3	0.7	0.2	2.8	100.0	1,031	1.6
男子	24.8	28.4	24.3	9.7	4.5	2.7	1.2	0.4	0.8	0.1	3.0	100.0	733	1.6
女子	27.9	25.5	24.5	12.4	4.0	2.3	0.3	-	0.3	0.3	2.3	100.0	298	1.5
修士課程	31.0	33.3	19.7	8.3	1.7	1.5	0.8	-	0.4	0.2	3.2	100.0	529	1.3
博士課程	11.9	25.5	32.9	14.1	7.9	4.2	1.2	0.5	1.0	0.2	0.5	100.0	404	2.2

0.2

2 - 5 表 国外の学会過去1年間の参加回数

区分	なし %	1回 %	2回 %	3回 %	4回 %	5回 %	無回答 %	合計 %	事例数 人	平均値 回
1999年(49回)	(77.8)	(11.8)	(2.5)	(0.3)	(0.2)	(0.1)	(7.2)	(100.0)	(1,038)	
全体	72.9	14.3	3.4	0.7	0.3	0.3	8.4	100.0	1,031	0.3
男子	72.9	13.6	3.8	1.0	0.4	0.4	8.3	100.0	733	0.3
女子	73.2	15.8	2.3	-	-	-	8.7	100.0	298	0.2
修士課程	83.6	6.6	0.8	-	0.2	-	8.9	100.0	529	0.1
博士課程	59.2	24.8	7.2	1.7	0.5	-	6.7	100.0	404	0.5
獣医学又は医学を履修する博士課程	63.0	26.1	4.3	-	-	-	6.5	100.0	46	0.4
専門職学位課程	80.8	-	-	-	-	-	19.2	100.0	52	0.0
文科系	78.9	6.7	1.3	0.3	0.3	-	12.4	100.0	299	0.1
理科系	70.5	17.3	4.2	0.8	0.3	-	6.8	100.0	732	0.3

2 - 6 表 国外の学会過去1年間の発表件数

区分	なし %	1回 %	2回 %	3回 %	4回 %	5回 %	無回答 %	合計 %	事例数 人	平均値 回
1999年(49回)	(79.4)	(10.6)	(2.1)	(0.4)	(0.1)	(-)	(7.4)	(100.0)	(1,038)	
全体	75.5	12.6	2.3	0.9	0.2	0.1	8.4	100.0	1,031	0.2
男子	75.4	11.7	2.9	1.2	0.3	0.1	8.3	100.0	733	0.3
女子	75.5	14.8	1.0	-	-	-	8.7	100.0	298	0.2
修士課程	84.9	5.9	0.2	0.2	-	0.2	8.7	100.0	529	0.1
博士課程	63.4	22.0	5.4	2.0	0.5	-	6.7	100.0	404	0.4
獣医学又は医学を履修する博士課程	67.4	21.7	2.2	-	-	-	8.7	100.0	46	0.3
専門職学位課程	80.8	-	-	-	-	-	19.2	100.0	52	0.0
文科系	80.9	6.0	0.3	-	0.3	0.3	12.0	100.0	299	0.1
理科系	73.2	15.3	3.1	1.2	0.1	-	7.0	100.0	732	0.3

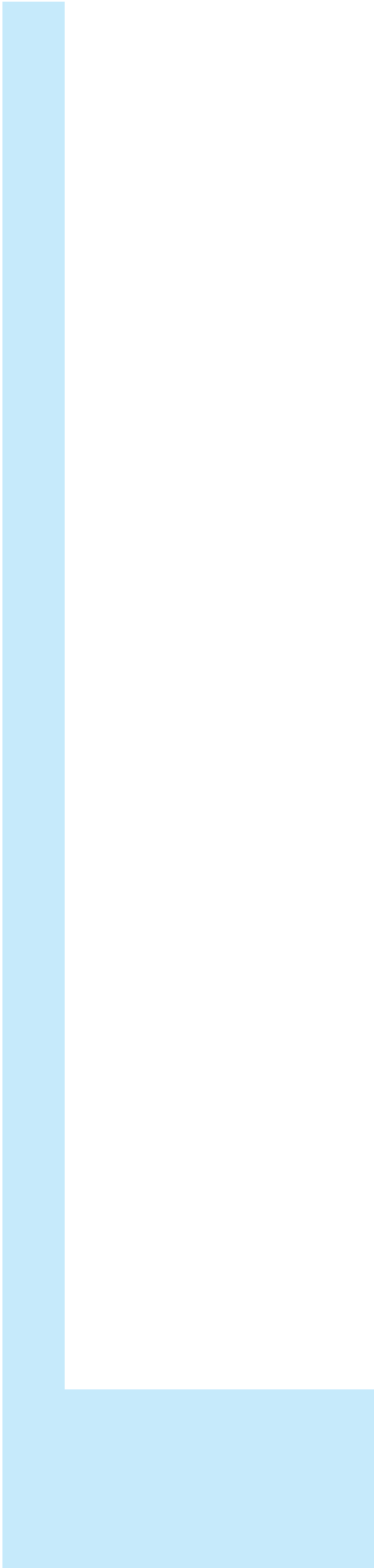
2 - 11表 大学院在学中の海外留学希望

留学したい

3 - 2 表 これまでの研究結果についての不満

(3つまで選択)

区分	思うように研究成果が上がらない	今やっている研究の意義がつかめない	研究テーマがはっきりしていない	研究の見通しが、たたない	自分の能力や適性に不安がある	研究時間を十分に取れない	自分の研究で指導を受ける教員が少ない	教員の指導が十分である	指導教員と意見が合わない	論文発表の機会が少ない	関連講義が十分受けていない	研究設備が不備がある	図書設備が不備がある	研究上の経費が不足している	研究室の雑用で自分の研究ができない	その他	無回答	合計	
1999年(49回)	%	(27.9)	(22.8)	(52.2)	(-)	(16.9)	(11.8)	(16.9)	(8.1)	(10.1)	(9.2)	(8.1)	(8.8)	(11.2)	(17.6)	(14.9)	(2.2)	(100.0)	
全体	54.4	17.3	18.5	33.4	42.2	18.3	13.2	15.9	5.1	5.6	6.6	6.1	2.9	7.6	8.3	4.1	0.2	100.0	
男子	57.5	18.8	19.2	33.1	37.6	19.5	10.8	11.8	4.9	7.0	5.6	6.3	2.4	6.6	9.1	34.2	7.6	6	
女子																			
修士課程																			
博士課程																			
獣医学又は医学を履修する博士課程																			
専門職学位課程																			
文系																			
理系																			
人文社会系研究科																			
教育学研究科																			
法学政治学研究科																			
経済学研究科																			
総合文化研究科																			
理学系研究科																			
工学系研究科																			
農学生命科学研究科																			
医学系研究科																			
薬学系研究科																			
数理学系研究科																			
新領域創成科学研究科																			
情報理工学系研究科																			
学際情報科学府																			
公共政策学教育部																			



3 - 7 表 研究室での日常生活の満足感

区 分	満足				不満			

区 分	満足					不満				
	5	4	3	2	1	無回答 %	合 計 %	事例数 人	平均値	
	%	%	%	%	%					
	29.1	20.5	22.2	15.2	11.2	1.8	100.0	1,031	3.4	
	31.5	22.1	21.7	13.6	9.5	1.5	100.0	733	3.5	
	23.2	16.4	23.5	19.1	15.1	2.7	100.0	298	3.1	
	30.1	21.9	22.3	15.3	9.6	0.8	100.0	529	3.5	
	30.9	20.3	19.6	15.6	12.9	0.7	100.0	404	3.4	
	34.8	28.3	13.0	13.0	10.9	-	100.0	46	3.6	
	-	-	50.0	13.5	13.5	23.1	100.0	52	2.5	
	6.7	11.4	30.8	23.7	22.4	5.0	100.0	299	2.5	
	38.3	24.2	18.7	11.7	6.6	0.5	100.0	732	3.8	
	4.9	9.9	27.2	30.9	25.9	1.2	100.0	81	2.4	
	3.8	15.4	23.1	34.6	23.1	-	100.0	26	2.4	
	-	-	44.4	18.5	14.8	22.2	100.0	54	2.4	
	3.6	17.9	28.6	28.6	17.	4		.		

区 分	満足					不満					無回答 %	合 計 %	事例数 人	平均値
	5	4	3	2	1									
	%	%	%	%	%									
	(19.7)	(28.9)	(28.9)	(14.9)	(6.4)	(1.3)	(100.0)	(1,038)						
	20.1	31.7	27.6	13.1	6.3	1.2	100.0	1,031	3.5					
	21.6	34.0	26.5	11.9	5.3	0.8	100.0	733	3.6					
	16.4	26.2	30.5	16.1	8.7	2.0	100.0	298	3.3					
	23.4	31.2	25.5	14.4	5.3	0.2	100.0	529	3.5					
	17.													





3 - 8 - 1 表 過去1年間に自分自身が負担した研究費

区 分	研究に必要な 書籍類の購入費		研究に必要なコピー代、 その他文房具の購入費		調査、実験等の費用		学会費、学会旅費、参加費、 学会に関する諸費用		その他		合計		
	平均額	事例数	平均額	事例数	平均額	事例数	平均額	事例数	平均額	事例数	平均額	事例数	
	千円	人	千円	人	千円	人	千円	人	千円	人	千円	人	
1999年(49回)	(75.9)	(1,038)	(26.6)	(1,038)	(44.8)	(1,038)	(46.1)	(1,038)	(14.8)	(1,038)	(208.3)	(1,038)	
全 体	64.7	1,031	19.8	1,031	35.6	1,031	42.7	1,031	22.5	1,031	169.1	1,031	
男 子	62.7	733	18.5	733	24.1	733	39.7	733	22.2	733	153.0	733	
女 子	69.8	298	23.1	298	65.3	298	50.4	298	23.4	298	208.7	298	
修 士 課 程	50.8	529	14.5	529	31.7	529	26.0	529	14.0	529	125.9	529	
博 士 課 程	77.9	404	25.1	404	47.6	404	60.7	404	22.1	404	217.6	404	
獣医学又は医学を 履修する博士課程	64.4	46	16.6	46	11.4	46	114.1	46	137.3	46	268.7	46	
専 門 職 学 位 課 程	106.0	52	36.3	52	2.1	52	0.3	52	20.0	52	144.7	52	
文 科 系	122.7	299	38.6	299	50.6	299	40.6	299	32.5	299	254.1	299	
理 科 系	41.5	732	12.3	732	29.9	732	43.6	732	18.8	732	134.4	732	
文 科 系	修 士 課 程	107.1	138	32.1	138	52.2	138	30.1	138	27.7	138	221.9	138
	博 士 課 程	139.5	121	44.8	121	64.3	121	64.0	121	40.5	121	319.3	121
	獣医学又は医学を 履修する博士課程	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	専 門 職 学 位 課 程	125.7	40	43.0	40	2.4	40	0.3	40	24.1	40	167.4	40
	理 科 系	31.2	391	8.3	391	24.9	391	24.7	391	10.1	391	92.0	391
理 科 系	博 士 課 程	51.9	283	16.9	283	41.0	283	59.4	283	14.5	283	174.1	283
	獣医学又は医学を 履修する博士課程	64.4	46	16.6	46	11.4	46	114.1	46	137.3	46	268.7	46
	専 門 職 学 位 課 程	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
人文社会系研究科	148.2	81	43.5	81	67.3	81	39.4	81	13.6	81	286.5	81	
教育学研究科	131.9	26	46.0	26	66.7	26	80.2	26	85.0	26	355.0	26	
法学政治学研究科	146.7	54	54.2	54	24.0	54	12.4	54	18.3	54	228.7	54	
経済学研究科	89.5	28	29.8	28	27.9	28	46.3	28	93.3	28	238.5	28	
総合文化研究科	99.0	110	27.9	110	53.3	110	43.3	110	26.5	110	222.7	110	
理学系研究科	37.8	145	8.3	145	16.0	145	49.3	145	10.3	145	115.5	145	
工学系研究科	29.2	181	10.0	181	16.1	181	30.0	181	9.6	181	89.1	181	
農学生命科学研究科	40.1	95	10.0	95	35.0	95	34.7	95	32.1	95	133.0	95	
医学系研究科	70.7	96	30.6	96	66.6	96	105.3	96	77.4	96	297.7	96	
薬学系研究科	40.4	35	6.7	35	1.7	35	22.3	35	0.0	35	71.1	35	
数理科学研究科	39.4	8	12.8	8	0.6	8	25.0	8	0.0	8	77.8	8	
新領域創成科学研究科	44.3	113	10.4	113	52.4	113	31.6	113	6.6	113	138.9	113	
情報理工学系研究科	19.1	34	7.6	34	27.1	34	33.5	34	13.1	34	87.3	34	
学際情報学府	90.0	13	14.5	13	17.7	13	19.2	13	0.0	13	130.5	13	
公共政策学教育部	47.1	12	16.1	12	1.3	12	0.5	12	7.1	12	69.0	12	



3 - 12表 修士論文作成予定期間

区 分	2年以内で 書けると思う %	3年で 書けると思う %	該当しない %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
	(85.1)	(12.8)				



3 - 14表 博士論文執筆予定

区 分	%	%	%	%	%	%	人
1999年(49回)	(28.4)	(49.7)	(11.4)	(3.9)	(6.7)	(100.0)	(493)
全 体	5.3	79.3	12.4	2.7	0.2	100.0	450
男 子	6.2	80.7	12.4	2.5	0.3	100.0	321
女 子	3.1	78.0	12.4	2.7	-	100.0	129
文 科 系	1.7	61.2	12.4	2.5	-	100.0	121
理 科 系	6.7	86.0	12.4	2.7	0.3	100.0	329
人文社会系研究科	-	29.4	70.6	-	-	100.0	34
教育学研究科	-	78.6	14.3	7.1	-	100.0	14
法学政治学研究科	-	88.9	11.1	-	-	100.0	9
経済学研究科	-	38.5	53.8	7.7	-	100.0	13
総合文化研究科	3.9	78.4	15.7	2.0	-	100.0	51
理学系研究科	6.6	84.2	5.3	3.9	-	100.0	76
工学系研究科	3.0	93.9	-	3.0	-	100.0	66
農学生命科学研究科	4.7	81.4	9.3	4.7	-	100.0	43
医学系研究科	12.3	80.2	3.7	2.5	1.2	100.0	81
薬学系研究科	6.7	93.3	-	-	-	100.0	15
数理科学研究科	-	100.0	-	-	-	100.0	2
新領域創成科学研究科	-	94.1	5.9	-	-	100.0	34
情報理工学系研究科	22.2	77.8	-	-	-	100.0	9
学際情報学府	-	66.7	33.3	-	-	100.0	3
公共政策学教育部	-	-	-	-	-	-	-

博士課程の方のみ

3 - 15表 研究上使用する主な言語

(2つまで選択)

区 分	日本語	英語	中国語	独語	仏語	その他	無回答	事例数
	%	%	%	%	%	%	%	人
1999年(49回)								
全 体	93.9	82.8	1.3	1.6	2.3	1.6	0.9	1,031
男 子	94.4	83.9	0.7	1.2	1.9	1.6	0.7	733
女 子	92.6	80.2	2.7	2.3	3.4	1.7	1.3	298
修 士 課 程	95.5	82.0	1.3	1.1	2.5	1.5	-	529
博 士 課 程	94.1	86.4	1.5	2.5	2.7	2.2	-	404
獣医学又は医学を履修する博士課程	87.0	97.8	-	-	-	-	-	46
専門職学位課程	82.7	50.0	-	-	-	-	17.3	52
未 婚	94.4	83.2	1.3	1.5	2.5	1.7	0.6	880
既 婚	91.3	80.7	1.3	2.0	1.3	1.3	2.7	150
文 科 系	91.6	59.9	4.3	5.4	7.7	5.4	3.0	299
理 科 系	94.8	92.2	-	-	0.1	0.1	-	732

3 - 16 - 1 表 一日平均の研究時間

区 分	平均値 時間	事例数 人
	(8.0)	(1,028)名

4 - 1 表 修士課程修了後の進路(第1志望)

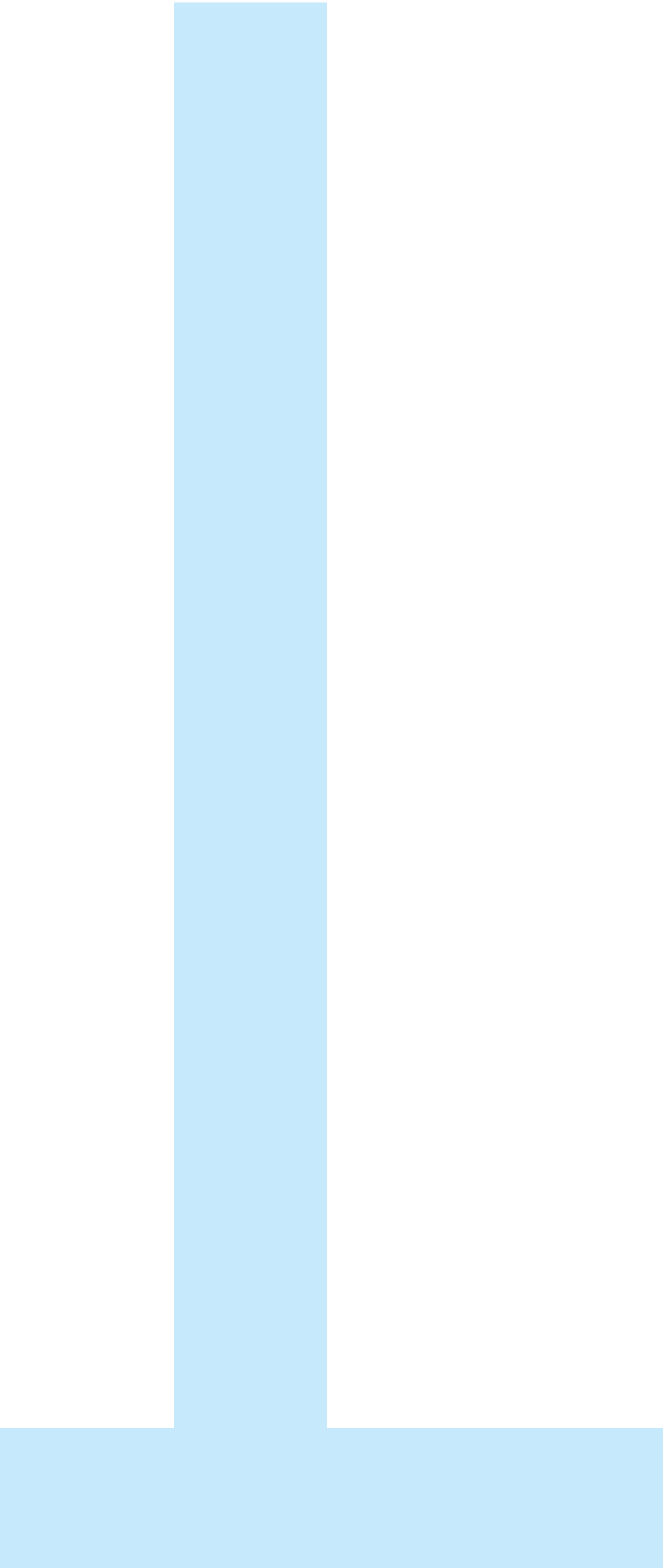
区分	修士課程と同じ研究室の博士課程へ進学したい	東京大学の他の研究室の博士課程へ進学したい	他大学の博士課程へ進学したい	修士入学したい	留学したい(博士課程進学の留学を含む)	研究職に就職したい	研究職や専門職以外で就職したい	社会人入学の方のみ		その他	無回答	合計	事例数
								現在の職場に戻りたい	現在の職場から新しい職場へ移りたい				
全体	40.3	3.8	0.9	0.6	3.8	23.4	23.4	0.8	0.4	2.1	0.6	100.0	529
男子	39.2	3.7	0.5	0.5	2.9	22.9	27.2	0.5	0.3	1.6	0.5	100.0	375
女子	42.9	3.9	1.9	0.6	5.8	24.7	14.3	1.3	0.6	3.2	0.6	100.0	154
文科系	63.8	3.6	-	0.7	5.8	5.8	13.0	1.4	1.4	4.3	-	100.0	138
理科系	32.0	3.8	1.3	0.5	3.1	29.7	27.1	0.5	-	1.3	0.8	100.0	391
全体(第2志望)	4.9	4.2	3.4	1.3	14.7	17.0	17.6	0.4	0.8	1.5	34.2	100.0	529

4 - 2 表 博士課程修了後の進路(第1志望)

区分	研究生を除く										無回答	合計	事例数	
	博士課程と同じ研究室に特別研究員などとして残りたくない	東京大学の他の研究室に特別研究員などとして残りたくない	他大学の研究室に特別研究員などとして残りたくない	国立研究機関(独立行政法人を含む)の研究員として残りたくない	修士入学したい	留学したい	研究職に就職したい	研究職や研究職以外で就職したい	現在の職場に戻りたい	現在の職場から新しい職場へ移りたい				その他
全体	15.3	7.6	10.7	14.4	0.4	13.1	26.9	3.8	3.1	0.2	3.3	1.1	100.0	450
男子	15.9	7.2	11.5	14.0	-	14.0	25.9	4.0	3.4	0.3	2.8	0.9	100.0	321
女子	14.0	8.5	8.5	15.5	1.6	10.9	29.5	3.1	2.3	-	4.7	1.6	100.0	129
文科系	18.2	9.1	9.1	9.9	-	6.6	42.1	-	-	-	3.3	1.7	100.0	121
理科系	14.3	7.0	11.2	16.1	0.6	15.5	21.3	5.2	4.3	0.3	3.3	0.9	100.0	329
全体(団観)	14.3	7.0	11.2	16.1	0.6	15.5	21.3	5.2	4.3	0.3	3.3	0.9	100.0	329

4 - 3 表 就職希望職種（第1志望）

区分	大学（短大、 附置研究所を 含む）の教育 職、研究職	大学以外の 教育職	国立研究機 関（独立行政 法人を含む） の研究職	国、地方公共 団体の研究職、 技術職	国、地方公共 団体の一般職	企業の研究職、 技術職	企業の一般職	専門職（弁護 士、公認会計 士、税理士、 医師等）	その他	無回答	合計	事例数
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
1999年(49回)	(43.3)	(1.3)	(14.6)	(2.7)	(2.1)	(23.9)	(4.1)	(4.8)	(1.3)	(1.8)	(100.0)	(1,038)
全体	45.3	1.7	10.8	3.5	2.8	19.4	6.7	6.5	2.3	1.0	100.0	1,031
男子	45.7	0.8	10.1	3.7	2.9	20.6	7.2	6.5	1.8	0.7	100.0	733
女子	44.3	4.0	12.4	3.0	2.7	16.4	5.4	6.4	3.7	1.7	100.0	298
修士課程	34.6	2.5	9.5	4.7	4.2	29.5	10.4	1.9	2.1	0.8	100.0	529
博士課程	63.9	1.2	13.4	2.5	0.5	10.4	1.7	2.5	3.2	0.7	100.0	404
獣医学又は医学を 履修する博士課程	50.0	-	13.0	2.2	-	4.3	-	28.3	-	2.2	100.0	46
専門職学位課程	5.8	-	1.9	-	9.6	-	13.5	65.4	-	3.8	100.0	52
文科系	64.9	2.3	3.3	0.7	2.0	4.7	4.3	12.7	3.0	2.0	100.0	299
理科系	37.3	1.5	13.8	4.6	3.1	25.4	7.7	4.0	2.0	0.5	100.0	732
全体(第2志望)	5.7	4.9	26.6	7.1	2.6	13.9	8.6	5.9	2.9	21.7	100.0	1,031



5 - 1表 通学に利用している交通機関

(複数選択)

区 分	電車	バス	自家用車	バイク	自転車	徒歩のみ	その他	無回答	合 計	事例数
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
全 体	70.4	9.9	4.7	4.8	42.8	10.1	0.2	0.7	100.0	1,031
男 子	67.3	8.0	3.8	5.9	46.9	10.5	0.1	0.7	100.0	733
女 子	78.2	14.4	6.7	2.0	32.6	9.1	0.3	0.7	100.0	298
本郷キャンパス	69.9	8.8	2.9	4.0	43.7	11.1	0.3	0.7	100.0	701
駒場キャンパス	88.2	5.9	1.6	4.3	30.5	9.1	-	-	100.0	187
柏キャンパス	37.3	29.3	20.0	12.0	62.7	1.3	-	-	100.0	75
そ の 他	64.2	10.4	15.0	6.0	46.3	11.9	-	1.5	100.0	67

1999年度調査(第49回)

		第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位	第 6 位	第 7 位	第 8 位	第 9 位	第 10 位	事例数
全 体	第 1 位	64.2	0.9	0.9	3.3	21.7	8.2	-	1.0	100.0	1,038	
	第 2 位	11.6	9.5	1.7	2.0	18.1	17.6	0.7	38.7	100.0	1,038	

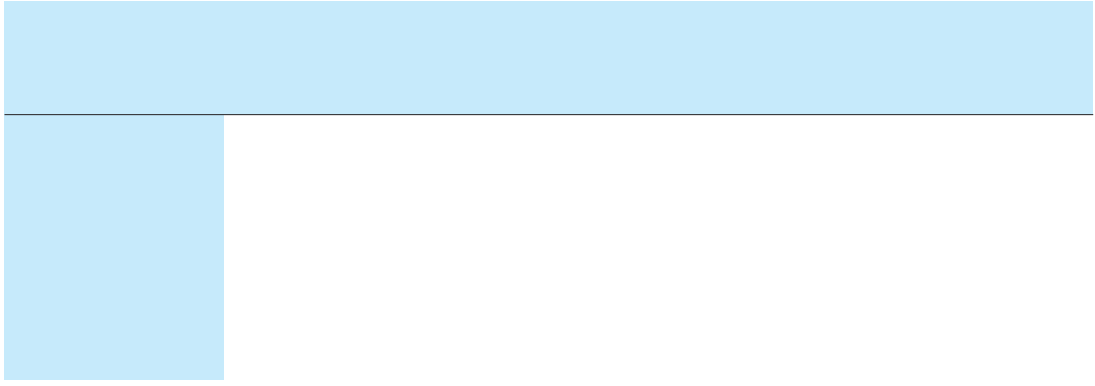
5 - 2表 片道の通学所要時間

区 分	平均時間	事例数
	分	人
1999年(49回)	(49.5)	(1038)
全 体	45.9	1,031
男 子	43.8	733
女 子	51.2	298
本郷キャンパス	46.1	701
駒場キャンパス	47.4	187
柏キャンパス	39.3	75
そ の 他	48.4	67

5 - 3表 キャンパスへのアクセスに不便を感じますか

区 分	はい	いいえ	無回答	合 計	事例数
	%	%	%	%	人
全 体	21.7	76.9	1.4	100.0	1,031
男 子	20.1	79.0	1.0	100.0	733
女 子	25.8	71.8	2.3	100.0	298
本郷キャンパス	19.8	79.2	1.0	100.0	701
駒場キャンパス	14.4	83.4	2.1	100.0	187
柏キャンパス	54.7	45.3	-	100.0	75
そ の 他	25.4	71.6	3.0	100.0	67

	%	%	%	%	人
	21.0	78.0	1.0	100.0	1,031
	15.7	83.4	1.0	100.0	733
	34.2	64.8	1.0	100.0	298
	22.0	77.5	0.6	100.0	701
	11.2	86.1	2.7	100.0	187
	29.3	70.7又	.7	100	



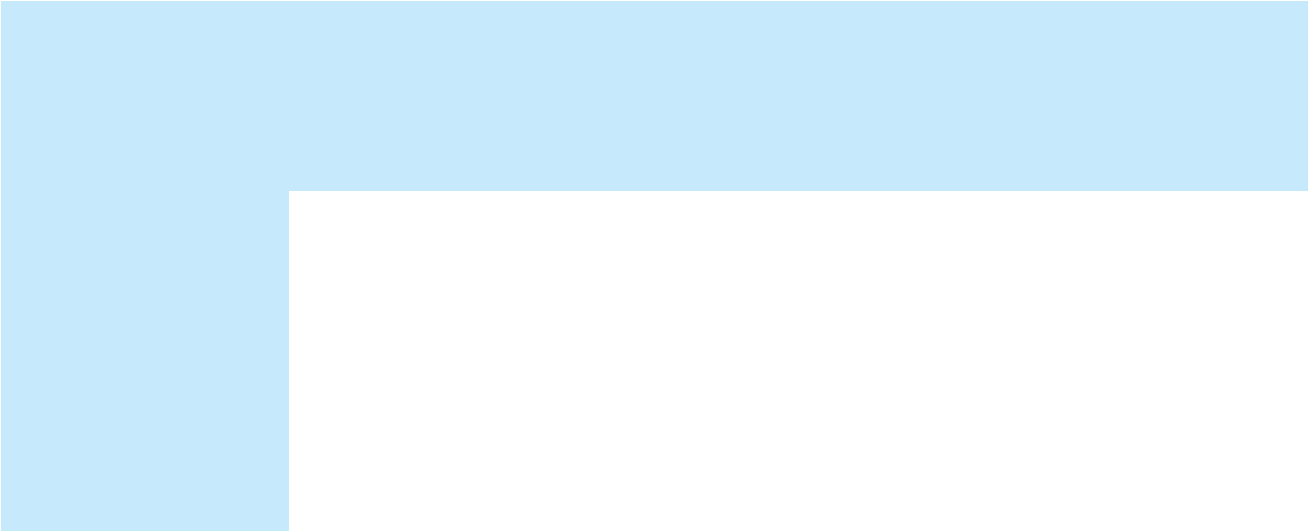
5 - 5 表 一般的な施設等の中で、もっと整備が必要だと思う事はどれですか

区 分	よく整備・ 美化されて いる	ある程度整 備・美化さ れている	あまり整 備・美化さ れていない	整備・美化 が不足して いる	無回答	合 計	事例数	平均値
	4 %	3 %	2 %	1 %				
	27.9	58.0	8.9	3.6	1.6	100.0	1,031	3.1
	29.7	57.6	8.6	2.7	1.4	100.0	733	3.2

区 分

よく整備・
美化されて
いる

ある程度整
備・美化さ
れている



区 分	満足 している	まあ満足 している	どちらとも 言えない	やや不満 である	不満である	利用した ことがない	無回答	合 計	事例数
	1	2	3	4	5	6			
	%	%	%	%	%	%			
全 体	4.7	10.5	18.6	4.1	5.0	68.1	3.9	100.0	1,031
男 子	5.3	10.0	21.1	4.4	2.8	53.4	3.4	100.0	733
女 子	3.0	11.7	12.4	3.4	1.0	68.4	5.0	100.0	298
本郷キャンパス	5.4	10.8	19.5	4.0	1.6	54.9	3.7	100.0	701
駒場キャンパス	2.1	7.0	18.2	6.4	1.0	58.3	2.7	100.0	187
柏キャンパス	4.0	14.7	14.7	-	-	68.6	7.7	100.0	75
そ の 他	4.5	11.9	14.9	-	-	68.7	0.0	100.0	67
2003年(第53回) 学 部 学 生	(10.3)	(26.6)	(30.8)	(4.1)	(3.4)	(68.1)	(21.3)	(100.0)	(1,501)

区 分	満足 している	まあ満足 している	どちらとも 言えない	やや不満 である	不満である	利用した ことがない	無回答	合 計	事例数
	1	2	3	4	5	6			
	%	%	%	%	%	%			
全 体	5.9	11.7	15.1	4.1	5.0	68.1	3.9	100.0	1,031
男 子	6.4	13.0	17.2	4.4	2.8	53.4	3.4	100.0	733
女 子	4.7	8.7	10.1	3.4	1.0	68.8	5.0	100.0	298
本郷キャンパス	6.4	11.4	15.4	4.0	1.6	58.9	3.7	100.0	701
駒場キャンパス	4.8	11.8	16.6	6.4	1.0	55.6	2.7	100.0	187
柏キャンパス	4.0	14.7	10.7	-	-	68.6	7.7	100.0	75
そ の 他	6.0	11.9	13.4	-	-	68.7	0.0	100.0	67
2003年(第53回) 学 部 学 生	(9.1)	(23.8)	(27.6)	(5.1)	(3.9)	(68.1)	(1.7)	(100.0)	(1,501)

区 分		満足 している	まあ満足 している	どちらとも 言えない	やや不満 である	不満である	利用した ことがない	無回答	合 計	事例数
		1	2	3	4	5	6			
		%	%	%	%	%	%			
屋外体育施設（御殿下グラウンド、農学部グラウンド、野球場、テニスコート等を含む）（本郷）	全 体	10.5	14.8	13.6	5.6	2.2	50.3	2.9	100.0	1,031
	男 子	11.6	15.8	15.0	6.0	2.6	46.0	3.0	100.0	733
	女 子	7.7	12.4	10.1	4.7	1.3	61.1	2.7	100.0	298
	本郷キャンパス	12.7	16.8	14.4	7.3	2.4	44.4	2.0	100.0	701
	駒場キャンパス	3.2	9.6	12.8	2.7	2.7	65.2	3.7	100.0	187
	柏キャンパス	10.7	12.0	9.3	-	1.3	60.0	6.7	100.0	75
	そ の 他	7.5	11.9	11.9	3.0	-	61.2	4.5	100.0	67
	2003年(第53回) 学 部 学 生	(8.6)	(12.8)	(18.9)	(3.3)	(1.9)	(51.8)	(2.8)	(100.0)	(1,501)

区 分		満足 している	まあ満足 している	どちらとも 言えない

区 分	満足 している	まあ満足 している	どちらとも 言えない
-----	------------	--------------	---------------

5 - 7 表 諸施設等の中で、施設・設備の充実・整備が早急に必要と思うものは何ですか。

(3つまで選択)

区分	研究科内の学生控室等	学生会館等(駒場)	学生相談所	屋内体育施設(駒場)	屋外体育施設(駒場)	屋内体育施設(本郷)	屋外体育施設(本郷)	二食内ホール等(本郷)	検見川総合運動場等	スポーツエリア	学内食堂	学寮	寛げるスペース	その他	無回答	合計	事例数	施設所

6 - 1表 現在、大学では大学の社会的貢献を促進し、また、国際化を推進しようとしています。これらに関連して右に挙げるそれぞれの事項はどの程度重要だと思いますか。

区 分		非常に重要	かなり重要	重要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	合 計	事例数	平均値
		5	4	3	2	1				
		%	%	%	%	%				
社会的貢献を促進するために、 授業の外部開放を進める	全 体	8.5	15.1	34.3	30.5	10.0	1.6	100.0	1,031	2.8
	男 子	8.7	16.1	31.9	29.9	11.9	1.5	100.0	733	2.8
	女 子	8.1	12.8	40.3	31.9	5.4	1.7	100.0	298	2.9
	修 士 課 程	8.9	16.3	33.3	30.2	9.8	1.5	100.0	529	2.8
	博 士 課 程	8.4	14.6	36.4	29.2	10.1	1.2	100.0	404	2.8
	獣医学又は医学を履修する博士課程	13.0	15.2	30.4	26.1	10.9	4.3	100.0	46	2.9
	専門職学位課程	1.9	7.7	32.7	46.2	9.6	1.9	100.0	52	2.5
2003年(第53回)学部学生	(9.9)	(16.1)	(33.0)	(32.7)	(7.1)	(1.1)	(100.0)	(1,501)	(2.9)	

区 分		非常に重要	かなり重要	重要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	合 計	事例数	平均値
		5	4	3	2	1				
		%	%	%	%	%				
社会的貢献を促進するために、 産学協同をより推進する	全 体	21.8	27.5	33.9	11.3	4.0	1.5	100.0	1,031	3.5
	男 子	23.5	28.6	30.7	11.2	4.6	1.4	100.0	733	3.6
	女 子	17.8	24.8	41.9	11.4	2.3	1.7	100.0	298	3.5
	修 士 課 程	23.4	28.2	32.3	11.5	3.0	1.5	100.0	529	3.6
	博 士 課 程	19.6	27.2	36.1	9.9	5.7	1.5	100.0	404	3.5
	獣医学又は医学を履修する博士課程	26.1	23.9	30.4	13.0	4.3	2.2	100.0	46	3.6
	専門職学位課程	19.2	26.9	36.5	17.3	-	-	100.0	52	3.5
2003年(第53回)学部学生	(17.0)	(29.9)	(32.8)	(15.1)	(3.6)	(1.6)	(100.0)	(1,501)	(3.4)	

全 体	12.2	17.4	32.2	25.2	11.5	1.5	100.0	1,031	2.9
男 子	12.0	16.6	31.2	25.6	13.1	1.4	100.0	733	2.9
女 子	12.8	19.1	34.6	24.2	7.7	1.7	100.0	298	3.1
修 士 課 程	14.4	16.6	33.1	24.4	10.0	1.5	100.0	529	3.0
博 士 課 程	9.2	15.8	31.7	28.0	13.9	1.5	100.0	404	2.8
	17.4	28.3	26.1	17.4	8.7	2.2	100.0	46	3.3
	9.6	26.9	32.7	19.2	11.5	-	100.0	52	3.0
	(10.2)	(19.8)	(33.2)	(26.7)	(8.7)	(1.4)	(100.0)	(1,501)	(

区 分	非常に重要	かなり重要	重要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	合 計	事例数	平均値	
	5	4	3	2	1					
	%	%	%	%	%					
(むしろ) 社会的貢献を促進するために、基礎研究を充実させる	全 体	32.4	27.1	32.3	6.1	0.6	1.6	100.0	1,031	3.9
	男 子	34.4	26.7	30.3	6.1	0.8	1.6	100.0	733	3.9
	女 子	27.5	27.9	37.2	6.0	-	1.3	100.0	298	3.8
	修 士 課 程	28.7	25.9	35.0	7.9	0.8	1.7	100.0	529	3.8
	博 士 課 程	37.1	28.2	29.0	4.0	0.2	1.5	100.0	404	4.0
	獣医学又は医学を履修する博士課程	45.7	21.7	26.1	4.3	-	2.2	100.0	46	4.1
	専門職学位課程	21.2	34.6	36.5	5.8	1.9	-	100.0	52	3.7
	2003年(第53回)学部学生	(18.3)	(25.5)	(44.2)	(9.3)	(1.4)	(1.2)	(100.0)	(1,501)	(3.5)

区 分	非常に重要	かなり重要	重要	2	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	合 計	事例数	平均値
全 体	41.8	32.4	20.4	3.4	0.8	1.3	100.0	1,031	4.1	
男 子	43.8	30.4	19.5	3.8	1.1	1.4	100.0	733	4.1	
女 子	36.9	37.2	22.5	2.3	-	1.0	100.0	298	4.1	
修 士 課 程	41.8	31.2	20.8	4.2	0.6	1.5	100.0	529	4.1	
博 士 課 程	44.6	32.9	18.6	2.2	0.7	1.0	100.0	404	4.2	
	37.0	28.3	28.3	4.3	-	2.2	100.0	46	4.0	
	25.0	44.2	23.1	3.8	3.8	-	100.0	52	3.8	
	(37.5)	(36.2)	(21.7)	(2.5)	(0.9)	(1.2)	(100.0)	(1,501)	(4.1)	

区 分	非常に重要	かなり重要	重要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	合 計	事例数	平均値
	5 %	4 %	3 %	2 %	1 %	%	%	人	
教 師 全 体	37.1	27.9	26.3	6.1	1.4	1.3	100.0	1,031	3.9
男 子	37.9	28.9	25.6	6.9	0.8	1.5	100.0	704	3.9
女 子	35.2	31.5	27.9	4.4	0.3	0.7	100.0	298	4.0
修 士 課 程	36.5	28.5	25.7	7.2	0.8	1.3	100.0	529	3.9
博 士 課 程	37.6	27.7	26.5	4.5	2.5	1.2	100.0	404	3.9
	39.1	23.9	19.6	15.2	-	2.2	100.0	46	3.9
	36.5	26.9	36.5	-	-	-	100.0	52	4.0
	(40.6)	(30.0)	(21.6)	(5.9)	(0.8)	(1.1)	(100.0)	(1,501)	(4.0)

7 - 1表 課 程

区分	修士課程		博士課程		獣医学又は医学を履修する博士課程		専門職学位課程		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
男子	375	51.2	283	38.6	38	5.2	37	5.0	733	100.0
女子	154	51.7	121	40.6	8	2.7	15	5.0	298	100.0
合計	529	51.3	404	39.2	46	4.5	52	5.0	1,031	100.0

7 - 2表 学 年

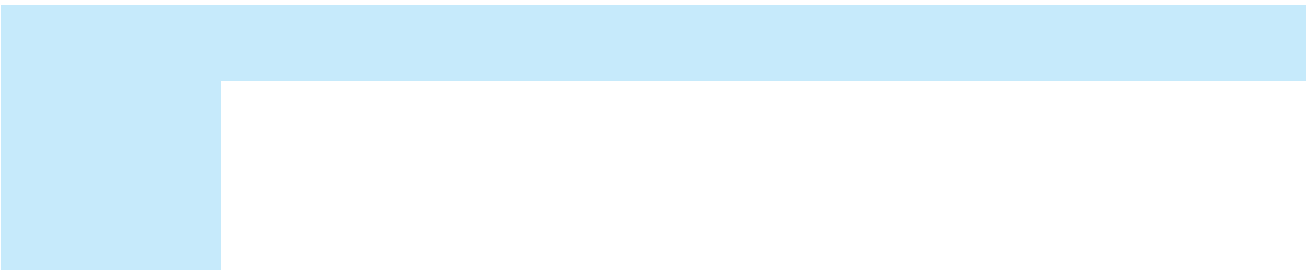
区 分	1年		2年		3年		4年		5年		6年		合 計		
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
男 子	315	43.0	286	39.0	94	12.8	28	3.8	10	1.4	-	-	733	100.0	
女 子	119	39.9	121	40.6	42	14.1	12	4.0	2	0.7	1	0.3	298	100.0	
男 子	修 士 課 程	170	45.3	190	50.7	15	4.0	-	-	-	-	-	-	375	100.0
	博 士 課 程	101	35.7	84	29.7	68	24.0	21	7.4	9	3.2	-	-	283	100.0
	獣医学又は医学を履修する博士課程	10	26.3	9	23.7	11	28.9	7	18.4	1	2.6	-	-	38	100.0
	専門職学位課程	37	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	37	100.0
女 子	修 士 課 程	68	44.2	83	53.9	3	1.9	-	-	-	-	-	-	154	100.0
	博 士 課 程	36	29.8	36	29.8	35	28.9	12	9.9	1	0.8	-	-	121	100.0
	獣医学又は医学を履修する博士課程	-	-	2	25.0	4	50.0	-	-	1	12.5	1	12.5	8	100.0
	専門職学位課程	15	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15	100.0
合 計	434	42.1	407	39.5	136	13.2	40	3.9	12	1.2	1	0.1	1,031	100.0	

7 - 3表 年齢構成分布

区 分	22歳	24歳	26歳	28歳	30歳	32歳	34歳	36歳	38歳以上	無回答	合 計	事例数
	23歳	25歳	27歳	29歳	31歳	33歳	35歳	37歳				
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
1999年(第49回)	(18.1)	(33.0)	(24.4)	(10.6)	(4.2)	(2.8)	(1.3)	(1.7)	(3.8)	(0.1)	(100.0)	(1,038)
全 体	19.6	36.4	20.7	8.2	5.2	3.2	1.6	1.0	3.8	0.3	100.0	1,031

(1.2 0.3)

区 分	本学の 学部学生 %	他大学の 学部学生 %	本学の 他研究科の 大学院生 %	他大学の 大学院生 %	社会人 %	その他 %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
1999年(第49回)	(55.0)	(25.1)	(1.7)	(7.6)	(9.2)	(-)	(0.8)	(100.0)	(1,038)
全 体	52.5	36.5	0.9	2.1	6.4	1.0	0.7	100.0	581
男 子	58.5	31.8	1.0	1.9	5.1	1.0	0.7	100.0	412
女 子	37.9	47.9	0.6	2.4	9.5	1.2	0.5	100.0	170



8 - 1表 実家の所在地

区 分	東京都 %	関東 %	北海道 %	東北 %	中部 %	近畿 %	中国 %	四国 %	九州 %	外国 %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
1999年(49回)	(36.0)	(34.9)	(7.0)	(1.3)	(9.9)	(7.0)	(3.4)	(2.1)	(3.8)	(-)	(1.0)	(100.0)	(1,038)
全 体	25.6	34.4	1.8	3.7	13.4	7.6	4.9	2.3	5.7	0.4	0.1	100.0	1,031
男 子	24.4	32.6	2.2	3.7	14.1	8.7	5.5	2.0	6.4	0.3	0.1	100.0	733
女 子	28.5	38.9	1.0	3.7	11.7	4.7	3.7	3.0	4.0	0.7	-	100.0	298
修士課程	24.2	35.9	1.3	4.5	14.0	6.8	4.0	2.3	6.8	0.2	-	100.0	529
博士課程	25.0	32.2	2.7	3.2	14.1	8.9	6.7	3.0	3.5	0.7	-	100.0	404
	32.6	37.0	-	-	10.9	-	2.2	-	15.2	-	2.2	100.0	46
専 門 職 学位課程	38.5	34.6	1.9	1.9	3.8	11.5	3.8	-	3.8	-	-	100.0	52

区 分	未婚 %	既婚 %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
1999年(49回)	(84.2)	(14.8)	(1.0)	(100.0)	(1,038)
全 体	85.4	14.5	0.1	100.0	1,031
男 子	87.0	12.8	0.1	100.0	733
女 子	81.2	18.8	-	100.0	298
修 士 課 程	90.4	9.6	-	100.0	529
博 士 課 程	83.2	16.8	-	100.0	404
獣医学又は医学を 履修する博士課程	63.0	34.8	2.2	100.0	46
専 門 車 両 操 縦 士					

8 - 5 - 1表 子供の世話「主として世話をする者」

区 分	自分 %	配偶者 %	自分又は 配偶者の親 %	その他 の親族 %	知人 %	その他 %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
1999年(49回)	(14.3)	(50.0)	(3.6)	(-)	(1.8)	(2.3)	(30.4)	(100.0)	(56)
全 体	17.6	67.6	2.9	-	-	8.8	2.9	100.0	34
男 子	-	85.2	-	-	-	11.1	3.7	100.0	27
女 子	85.7	-	14.3	-	-	-	-	100.0	7

8 - 5 - 2表 子供の世話「従として世話をする者」

区 分	自分	配偶者	自分又は 配偶者の親	その他 の親族	知人	その他	無回答	合 計	事例数			
1999年(49回)	(19.9)	(9.5)	(19.1)	(32.5)	(13.0)	(4.3)	(1.2)	(-)	(-)	(0.5)	(100.0)	(1028)
全 体	15.3	7.5	21.7	33.4	16.3	3.8	1.4	0.2	-	0.5	100.0	1,031
未 婚	16.9	3.4	20.5	35.5	17.6	4.1	1.5	0.2	-	0.3	100.0	880
既 婚	6.0	31.3	29.3	21.3	8.7	2.0	0.7	-	-	0.7	100.0	150
男 子	18.3	3.4	18.2	36.4	17.1	4.4	1.9	-	-	0.3	100.0	638
女 子	13.2	3.3	26.4	33.1	19.0	3.3	0.4	0.8	-	0.4	100.0	242
男 子	6.4	27.7	31.9	20.2	9.6	3.2	-	-	-	1.1	100.0	94
女 子	5.4	37.5	25.0	23.2	7.1	-	1.8	-	-	-	100.0	56

既婚者で子供がいて、保育所に預けていない方のみ

区 分	1人 %	2人 %	3人 %	4人 %	5人 %	6人 %	7人 %	8人 %	9人 以上 %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
1999年(49回)	(19.9)	(9.5)	(19.1)	(32.5)	(13.0)	(4.3)	(1.2)	(-)	(-)	(0.5)	(100.0)	(1028)
全 体	15.3	7.5	21.7	33.4	16.3	3.8	1.4	0.2	-	0.5	100.0	1,031
未 婚	16.9	3.4	20.5	35.5	17.6	4.1	1.5	0.2	-	0.3	100.0	880
既 婚	6.0	31.3	29.3	21.3	8.7	2.0	0.7	-	-	0.7	100.0	150
男 子	18.3	3.4	18.2	36.4	17.1	4.4	1.9	-	-	0.3	100.0	638
女 子	13.2	3.3	26.4	33.1	19.0	3.3	0.4	0.8	-	0.4	100.0	242
男 子	6.4	27.7	31.9	20.2	9.6	3.2	-	-	-	1.1	100.0	94
女 子	5.4	37.5	25.0	23.2	7.1	-	1.8	-	-	-	100.0	56

区 分	父 %	母 %	本人 %	配偶者 %	その他 %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
1999年(49回)	(62.)	(4.)	(25.)	(4.)	(2.)	(0.)	(100.)	(1,028)
全 体	66.0	52	225	43	17	0	100.0	1031
未 婚	72.6	58	198	-	1.7	0	100.	880
既 婚	27.3	20	387	293	20	0	100.	150
未 婚	男.0 子 55	199	-	1.6	-	100.	638	
	女.5 子 66	194	-	2.1	0	100.	242	
	84.3 71 58.0 48 獣医学又は医学を 履修する博士課程	73 351 24.1	- - 34	1.3 1.8 655	- 0 -	100. 100. 6.9	478 336 -	100.0
既 婚								
	獣医学又は医学を 履修する博士課程	6.3 及 6.7 能亡軸運	-	46.7 87.5 467	-	6.3	100.0	100.0 15

ク
ム

8 - 9 - 1 表 主たる家計支持者の年収分布

区 分	250万円 未満	250万円 ～ 350万円	350万円 ～ 450万円	450万円 ～ 550万円	550万円 ～ 650万円	650万円 ～ 750万円	750万円 ～ 850万円	850万円 ～ 950万円	950万円 ～ 1,050万円	1,050万円 ～ 1,150万円	1,150万円 ～ 1,250万円	1,250万円 ～ 1,350万円	1,350万円 ～ 1,450万円	1,450万円 ～ 1,550万円	1,550万 円以上	合 計	事例数 人	平均額 万円
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%			
1999年(49回)	(7.6)	(4.3)	(4.2)	(7.7)	(8.6)	(4.8)	(10.3)	(4.6)	(21.5)	(2.7)	(7.7)	(3.1)	(0.9)	(4.2)	(7.7)	(100.0)	(671)	(911.3)
全 体	8.7	6.3	4.8	7.0	7.0	5.9	9.2	5.8	23.0	2.2	5.6	1.4	0.4	4.1	8.4	100.0	726	907.4
男 子	7.6	7.4	5.1	9.0	7.4	5.5	9.2	5.7	22.7	2.5	5.9	1.2	0.4	3.5	7.0	100.0	512	878.9
女 子	11.2	3.7	4.2	2.3	6.1	7.0	9.3	6.1	23.8	1.4	5.1	1.9	0.5	5.6	11.7	100.0	214	975.7
未 婚	7.3	6.8	5.5	8.9	7.3	5.2	8.9	6.4	23.4	2.3	5.7	1.1	0.5	3.6	7.3	100.0	440	894.5
既 婚	9.2	3.4	2.9	2.3	6.3	6.3	9.2	6.9	25.9	1.7	4.6	2.3	-	6.3	12.6	100.0	174	967.6
男 子	9.7	11.1	2.8	9.7	8.3	6.9	11.1	1.4	18.1	4.2	6.9	1.4	-	2.8	5.6	100.0	72	783.3
女 子	20.0	5.0	10.0	2.5	5.0	10.0	10.0	2.5	15.0	-	7.5	-	2.5	2.5	7.5	100.0	40	1010.8

区 分	250万円	350万円	450万円	550万円	650万円	750万円	850万円	950万円	1,050万円	1,150万円	1,250万円	1,350万円	1,450万円	1,550万円	合 計					
	未満	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	以上	(8.3)	(4.5)	(8.3)	(100.0)	(556)	(993.0)
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	万円
1999年(49回)	(7.0)	(4.1)	(4.7)	(7.9)	(6.8)	(4.5)	(9.9)	(4.9)	(22.8)	(2.9)	(7.6)	(3.1)	(1.1)	(4.5)	(8.3)	(100.0)	(556)	(993.0)		
全 体	7.8	5.9	4.7	7.0	7.0	5.5	9.0	6.5	24.1	2.1	5.4	1.5	0.3	4.4	8.8	100.0	614	915.2		
男 子	7.3	6.8	5.5	8.9	7.3	5.2	8.9	6.4	23.4	2.3	5.7	1.1	0.5	3.6	7.3	100.0	440	894.5		
女 子	9.2	3.4	2.9	2.3	6.3	6.3	9.2	6.9	25.9	1.7	4.6	2.3	-	6.3	12.6	100.0	174	967.6		
修 士 課 程	6.0	6.4	5.1	9.0	8.5	6.0	10.7	6.4	25.2	1.7	5.1	0.9	-	3.0	6.0	100.0	234	868.3		
博 士 課 程	7.0	8.7	5.8	9.3	4.7	4.7	7.0	6.4	21.5	3.5	5.8	1.7	1.2	4.7	8.1	100.0	172	921.0		
獻医学又は医学を 履修する博士課程	28.6	-	-	7.1	7.1	-	7.1	14.3	28.6	-	7.1	-	-	-	-	100.0	14	673.6		
専門職学位課程	10.0	-	10.0	5.0	15.0	5.0	5.0	-	15.0	-	10.0	-	-	5.0	20.0	100.0	20	1128.0		
修 士 課 程	6.4	2.1	2.1	2.1	5.3	8.5	8.5	4.3	27.7	2.1	6.4	4.3	-	5.3	14.9	100.0	94	1024.5		
博 士 課 程	12.5	5.6	4.2	1.4	8.3	4.2	9.7	9.7	23.6	-	1.4	-	-	8.3	11.1	100.0	72	910.6		
獻医学又は医学を 履修する博士課程	20.0	-	-	20.0	-	-	20.0	-	-	20.0	20.0	-	-	-	-	100.0	5	720.0		
専門職学位課程	-	-	-	-	-	-	-	33.3	66.7	-	-	-	-	-	-	100.0	3	966.7		
専門的、技術的職業	6.3	4.0	6.3	7.4	5.7	6.3	6.8	6.8	29.0	1.7	6.8	0.6	0.6	2.8	9.1	100.0	176	938.1		
教 育 的 職 業	2.4	3.6	-	1.2	8.3	1.2	13.1	9.5	38.1	3.6	4.8	2.4	-	4.8	7.1	100.0	84	998.6		
管 理 的 職 業	2.1	0.7	1.4	2.8	6.3	3.5	11.9	5.6	28.0	3.5	7.0	2.8	0.7	9.1	14.7	100.0	143	1145.2		
事 務	4.8	14.3	11.9	21.4	7.1	7.1	7.1	11.9	9.5	-	2.4	-	-	-	2.4	100.				

区 分	250万円	350万円	450万円	550万円	650万円	750万円	850万円	950万円	1,050万円	1,150万円	1,250万円	1,350万円	1,450万円	1,550万円	合 計	事 例 数	平 均 額	
	未 満	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	以上				%
1999年(49回)	(10.4)	(5.2)	(1.7)	(7.0)	(17.4)	(6.1)	(12.2)	(3.5)	(1.7)	(8.7)	(3.5)	(-)	(2.6)	(5.2)	(100.0)	(115)	(806.0)	
全 体	13.4	8.9	5.4	7.1	7.1	8.0	10.7	1.8	2.7	7.1	0.9	0.9	2.7	6.3	100.0	112	864.6	
男 子	9.7	11.1	2.8	9.7	8.3	6.9	11.1	1.4	4.2	6.9	1.4	-	2.8	5.6	100.0	72	783.3	
女 子	20.0	5.0	10.0	2.5	5.0	10.0	10.0	2.5	-	7.5	-	2.5	2.5	7.5	100.0	40	1010.8	
修 士 課 程	9.1	4.5	9.1	9.1	13.6	4.5	-	4.5	9.1	-	4.5	-	-	4.5	100.0	22	779.5	
博 士 課 程	6.5	6.5	-	12.0	18.4	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	2.1	5004	0.000	3.1.3

区 分	衣料費		食費		住居費		光熱水費		研究・勉学費	
	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人
1999年(49回)	(9.1)	(1,022)	(37.9)	(1,022)	(41.5)	(1,022)	(8.7)	(1,022)	(17.2)	(1,022)
全 体	9.6	975	34.2	983	45.5	970	8.4	965	14.9	975
男 子	8.2	694	35.9	701	46.0	694	8.2	692	12.8	694
女 子	13.0	281	30.1	282	44.3	276	8.9	273	20.0	281
修 士 課 程	8.8	508	29.8	510	37.7	502	5.7	501	11.1	505
博 士 課 程	10.2	378	38.8	382	50.6	378	9.8	376	19.2	380
獣医学又は医学を履修する博士課程	15.1	41	48.6	43	91.6	42	27.9	41	21.7	42

区 分	衣料費		食費		住居費		光熱水費		研究・勉學費	
	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人
1999年(49回)	(8.7)	(868)	(35.9)	(868)	(36.0)	(868)	(6.7)	(868)	(15.4)	(868)
全 体	9.0	836	31.8	844	39.8	832	6.1	827	13.2	837
男 子	7.7	605	33.5	613	40.6	606	6.3	604	11.9	607
女 子	12.4	231	27.0	231	37.7	226	5.5	223	16.9	230
修 士 課 程	8.4	460	29.2	463	36.0	455	5.2	453	10.1	456
博 士 課 程	9.6	316	35.4	319	44.9	316	7.1	315	17.3	319

9 - 1 - 3 表 既婚者の生活費・支出状況

区分	衣料費		食費		住居費		光熱水費		研究・勉学費	
	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人
1999年(49回)	(11.6)	(154)	(49.1)	(154)	(72.8)	(154)	(19.9)	(154)	(27.0)	(154)
全体	13.3	139	49.2	139	80.0	138	22.3	138	24.9	138
男子	11.9	89	52.3	88	83.1	88	21.5	88	19.4	87
女子	15.8	50	43.9	51	74.4	50	23.8	50	34.1	51
修士課程	12.1	48	35.4	47	53.3	47	10.7	48	20.6	49
博士課程	13.6	62	56.2	63	79.3	62	23.9	61	29.4	61
獣医学又は医学を履修する博士課程	14.8	16	61.4	16	129.3	16	53.7	16	26.3	15
専門職学位課程	14.8	13	50.5	13	119.2	13	19.2	13	17.7	13
文科系	13.7	42	38.9	43	73.0	43	13.7	42	27.6	43
理科系	13.2	97	53.9	96	83.1	95	26.1	96	23.6	95

区分	教養・娯楽費		子供の養育・娯楽費		通学費		通信費		その他雑費		支出合計	
	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人
1999年(49回)	(16.6)	(154)	(14.0)	(154)	(9.0)	(154)	(-)	(-)	(18.5)	(154)	(241.4)	(154)
全体	18.4	133	22.3	126	13.5	137	14.1	138	17.7	133	242.4	142
男子	16.2	84	14.2	80	5.6	87	11.5	87	19.3	85	249.3	89
女子	22.0	49	36.4	46	27.3	50	18.6	51	14.9	48	230.6	53
修士課程	11.6	47	11.2	41	7.5	49	9.3	46	14.6	45	178.2	49
博士課程	22.1	58	29.5	58	22.0	58	17.8	62	15.6	59	246.1	63
獣医学又は医学を履修する博士課程	28.2	15	29.9	16	6.7	16	16.5	16	28.0	16	398.6	16
専門職学位課程	14.9	13	14.6	11	7.2	14	10.6	14	25.2	13	271.2	14
文科系	15.9	42	14.6	35	7.5	42	9.5	44	24.6	42	227.8	44
理科系	19.5	91	25.3	91	16.2	95	16.3	94	14.5	91	248.9	98

9 - 2 - 1 表 収入状況

区分	家庭からの仕送り小遣い		助成金		アルバイト		定職		配偶者の収入		その他		収入合計	
	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人
1999年(49回)	(44.1)	(1,022)	(62.3)	(1,022)	(33.8)	(1,022)	(22.4)	(1,022)	(13.7)	(1,022)	(3.9)	(1,022)	(178.7)	(1,022)
全体	46.9	952	54.6	938	36.2	944	26.0	900	17.1	888	6.8	846	175.9	987
男子	48.8	680	57.4	670	36.9	671	27.5	643	6.7	628	7.1	611	173.8	704
女子	42.1	272	47.5	268	34.3	273	22.4	257	42.1	260	6.0	235	181.3	283
修士課程	61.1	500	34.5	487	25.9	492	6.2	468	6.5	467	5.3	445	133.5	512
博士課程	32.0	367	84.6	369	36.6	366	39.0	350	26.4	343	7.4	326	211.9	384
獣医学又は医学を履修する博士課程	11.4	40	46.6	39	185.1	41	145.7	41	18.9	37	24.7	38	393.5	43
専門職学位課程	42.5	45	30.7	43	10.2	45	22.3	41	57.3	41	0.9	37	145.7	48
文科系	44.1	267	52.1	265	34.1	270	15.9	252	28.9	250	9.1	240	170.7	282
理科系	48.0	685	55.5	673	37.0	674	30.0	648	12.5	638	5.9	606	178.0	705

9 - 2 - 2 表 独身者の生活費・収入状況

区分	家庭からの仕送り小遣い		助成金		アルバイト		定職		その他		収入合計	
	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人
1999年(49回)	(47.9)	(868)	(67.3)	(868)	(28.0)	(868)	(9.9)	(868)	(2.6)	(868)	(155.5)	(868)
全体	49.3	830	55.9	817	32.3	819	17.5	780	4.1	739	152.8	848
男子	50.9	601	57.6	592	31.1	591	16.5	564	4.2	539	153.9	615
女子	45.3	229	51.3	225	35.5	228	20.3	216	3.7	200	149.6	233
修士課程	60.8	459	35.1	448	26.3	452	4.2	431	3.8	411	126.7	465
博士課程	35.1	311	89.6	311	30.4	307	31.8	292	5.0	276	183.4	321
獣医学又は医学を履修する博士課程	11.8	26	53.6	25	189.2	26	90.5	26	1.7	23	320.5	27
専門職学位課程	53.8	34	22.9	33	9.9	34	6.0	31	0.0	29	88.7	35
文科系	48.2	232	51.7	230	35.1	233	15.3	217	5.8	206	148.9	240
理科系	49.8	598	57.6	587	31.2	586	18.4	563	3.4	533	154.3	608

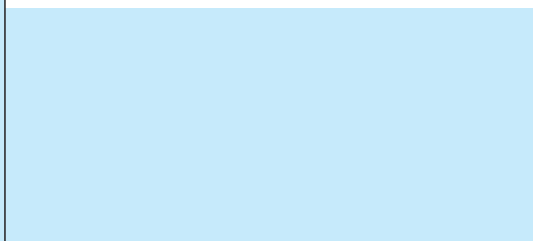
9 - 2 - 3 表 既婚者の生活費・収入状況

区分	家庭からの仕送り小遣い		助成金		アルバイト		定職		配偶者の収入		その他		収入合計	
	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人
1999年(49回)	(22.6)	(154)	(34.2)	(154)	(66.9)	(154)	(92.9)	(154)	(91.1)	(154)	(11.1)	(154)	(309.6)	(154)
全体	30.3	122	45.4	121	61.3	125	81.5	120	124.7	121	25.6	107	317.4	139
男子	33.4	79	55.1	78	80.0	80	106.4	79	55.9	74	28.9	72	311.0	89
女子	24.5	43	27.7	43	28.0	45	33.4	41	233.0	47	18.9	35	328.9	50
修士課程	64.3	41	28.0	39	20.5	40	28.7	37	76.4	40	23.2	34	201.0	47
博士課程	14.6	56	57.9	58	68.6	59	75.3	58	160.4	56	20.5	50	357.4	63
獣医学又は医学を履修する博士課程	10.7	14	34.1	14	178.1	15	241.3	15	50.0	14	60.0	15	516.7	16
専門職学位課程	7.7	11	56.7	10	11.4	11	73.0	10	213.6	11	4.1	8	299.2	13
文科系	17.6	35	54.9	35	27.6	37	19.6	35	185.1	39	29.0	34	295.4	42
理科系	35.4	87	41.5	86	75.5	88	107.0	85	95.9	82	24.1	73	327.0	97

区 分	3万円未満		3万円以上 6万円未満		6万円以上 9万円未満		9万円以上 12万円未満		12万円以上 15万円未満		15万円以上 18万円未満		18万円以上 21万円未満		21万円以上		合 計	事例数 人	平均額 万円
	%		%		%		%		%		%		%		%				
1999年(49回)	(2.7																		



区 分	仕送り のみ	助成金 のみ	アルバイト ・定職のみ	仕送り + 助成金	仕送り + アルバイト ・定職のみ ・定職のみ	助成金 + 配偶者	アルバイト ・定職のみ + 配偶者	仕送り + 助成金 + アルバイト	助成金 + アルバイト ・定職のみ + 配偶者	収入なし 合計	事例数



9 - 4 - 3 表 既婚者の収入形態

区分	仕送りのみ %	助成金の のみ %	アルバイト ・定職のみ %	配偶者の 収入のみ %	仕送り + 助成金 %	仕送り + アルバイト ・定職のみ %	助成金 + アルバイト 配偶者 %	アルバイト ・定職のみ + 配偶者 %	仕送り + 助成金 + アルバイト ・定職のみ %	助成金 + アルバイト ・定職のみ + 配偶者 %	その他 のみ %	収入 なし %	合計 %	事例数 人
	(5.2)	(4.5)	(25.3)	(7.1)	(3.2)	(5.8)	(2.6)	(20.1)	(3.2)	(9.1)	(1.3)	(6.5)	(100.0)	(154)
1999年(49回)														
全体	6.9	5.3	19.8	7.6	5.3	10.7	1.5	13.7	3.1	5.3	3.8	9.2	100.0	131
男子	5.1	6.3	25.3	-	6.3	16.5	2.5	7.6	2.5	6.3	2.5	7.6	100.0	79
女子	9.6	3.8	11.5	19.2	3.8	1.9	-	23.1	3.8	3.8	5.8	11.5	100.0	52
修士課程	11.5	3.8	7.7	-	11.5	38.5	-	3.8	7.7	0	3.8	7.7	100.0	26
博士課程	-	9.4	25.0	-	6.3	6.3	-	15.6	-	15.6	3.1	6.3	100.0	32
獣医学又は医学を履修する博士課程	-	-	64.3	-	-	-	7.1	21.4	-	-	-	-	100.0	14
専門職学位課程	14.3	14.3	14.3	-	-	14.3	14.3	-	-	-	-	28.6	100.0	7
女子	23.8	4.8	4.8	14.3	4.8	4.8	-	19.0	4.8	-	9.5	9.5	100.0	21
博士課程	-	4.2	16.7	16.7	4.2	0	-	25.0	4.2	8.3	4.2	12.5	100.0	24
獣医学又は医学を履修する博士課程	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
専門職学位課程	-	-	14.3	42.9	-	-	-	28.6	-	-	-	14.3	100.0	7

区分	大学などの非常勤講師		TA・研究事務補助		小・中・高等学校の講師		塾・予備校の講師		家庭教師		試験監督・採点・通信教育の添削		執筆・翻訳・通訳・編集		一般事務		販売・サービス・ビジネス訪問調査		飲食店		宿直、警備		肉体労働		上記以外の特技を生かした生かしたもの		上記以外の特技を生かした生かしたもの		その他無回答	
	(8.8)	(-)	(-)	(-)	(1.4)	(21.7)	(31.8)	(9.2)	(11.9)	(8.9)	(7.0)	(0.1)	(4.4)	(0.7)	(4.5)	(21.0)	(4.1)	(4.3)	(1.3)											
1999年(49回)	3.7	39.0	13.9	1.5	19.1	20.0	6.0	8.1	7.3	6.4	0.4	5.0	1.2	3.2	12.2	1.6	2.8	0.9												
全体	4.0	41.8	14.6	0.8	20.9	17.5	6.5	6.9	6.1	5.4	0.4	4.8	1.5	3.8	11.1	1.7	2.7	0.8												
男子	2.8	32.1	12.4	3.2	14.7	26.1	4.6	11.0	10.1	8.7	0.5	5.5	0.5	1.8	14.7	1.4	3.2	1.4												
女子	0.8	27.7	12.9	1.3	20.1	28.2	8.6	7.4	8.9	10.2	0.5	7.9	1.0	5.6	8.6	1.5	2.0	0.8												
修士課程	8.2	59.9	16.7	1.8	18.4	11.0	3.5	9.2	4.3	1.1	0.4	1.1	0.7	0.4	12.8	2.1	3.5	0.4												
博士課程	2.7	27.0	5.4	2.7	8.1	-	-	10.8	2.7	5.4	-	2.7	8.1	-	51.4	-	5.4	-												
獣医学又は医学を履修する博士課程	-	-	-	-	-	23.1	-	3.8	23.1	7.7	-	7.7	-	3.8	3.8	-	3.8	11.5												
専門職学位課程	3.4	39.3	13.6	1.6	20.1	21.4	6.4	7.0	7.3	6.6	0.3	4.8	1.1	3.6	10.1	1.9	2.7	0.9												
未婚	5.1	36.7	16.3	1.0	12.2	11.2	3.1	15.3	7.1	5.1	1.0	6.1	2.0	1.0	25.5	-	4.1	1.0												
既婚	8.7	18.8	20.3	5.8	37.7	14.5	5.8	15.9	8.7	4.3	-	2.9	1.4	4.3	5.8	2.9	5.8	1.4												
人文社会系研究科	21.7	8.7	21.7	4.3	26.1	21.7	8.7	8.7	17.4	8.7	-	-	-	-	17.4	-	-	-												
教育学研究科	-	7.1	21.4	-	21.4	21.4	3.6	7.1	10.7	7.1	-	-	-	-	7.1	3.6	3.6	10.7												
法学政治学研究科	-	56.0	20.0	-	24.0	28.0	12.0	4.0	20.0	-	-	-	-	4.0	8.0	-	4.0	-												
経済学研究科	5.4	51.1	13.0	1.1	20.7	18.5	5.4	15.2	8.7	3.3	1.1	4.3	2.2	2.2	3.3	-	2.2	2.2												
総合文化研究科	3.3	49.5	16.5	1.1	15.4	16.5	7.7	5.5	3.3	5.5	1.1	4.4	1.1	2.2	6.6	3.3	1.1	-												
理学系研究科	0.8	43.9	11.4	-	19.7	28.8	8.3	3.8	6.8	9.8	0.8	5.3	0.8	3.8	8.3	3.0	1.5	-												
工学系研究科	-	41.7	11.7	1.7	15.0	25.0	5.0	10.0	6.7	3.3	-	10.0	-	5.0	6.7	-	5.0	-												
農学生命科学研究科	5.3	24.0	9.3	1.3	6.7	5.3	-	12.0	2.7	4.0	-	2.7	5.3	1.3	53.3	-	4.0	-												
医学系研究科	-	68.4	-	-	5.3	26.3	5.3	5.3	-	5.3	-	-	-	-	10.5	-	-	-												
薬学系研究科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-												
数理科学研究科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-												

11 - 6表 アルバイト収入の用途

(2つまで選択)

区 分	生活費	研究・	教養・	旅行(帰省	技術・資格	耐久消費	貯金	その他	無回答	事例数	
	(衣・食・ 住居費)	授業料	勉学費	娯楽費	も含む)	等取得の 費用					財購入費 用
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	
1999年(49回)	(69.9)	(16.1)	(30.1)	(46.0)	(7.9)	(1.0)	(2.5)	(10.0)	(0.9)	(1.8)	(682)
全 体	66.4	17.9	24.2	32.5	8.4	1.1	2.0	9.5	0.3	5.1	739
男 子	68.9	17.7	22.3	34.2	8.8	0.8	2.7	8.6	0.4	4.2	521
女 子	60.6	18.3	28.9	28.4	7.3	1.8	0.5	11.5	-	7.3	218
修 士 課 程	61.7	8.1	20.8	43.4	13.7	1.5	2.3	10.4	0.3	4.1	394
博 士 課 程	73.0	28.4	29.4	20.6	1.4	0.7	1.8	8.5	0.4	5.0	282
獣医学又は医学を 履修する博士課程	83.8	54.1	18.9	10.8	-	-	-	8.1	-	8.1	37
専門職学位課程	42.3	-	26.9	26.9	15.4	-	3.8	7.7	-	19.2	26
未 婚	66.5	15.1	24.6	34.0	8.4	1.1	1.9	9.8	0.3	5.5	641
既 婚	66.3	35.7	21.4	22.4	8.2	1.0	3.1	7.1	-	3.1	98

かなり妨げ 多少妨げ 妨げに

資格試験のための準備。
今後の社会人生活のための専門性のキソの獲得。
社会人生活の垢落とし。

プローチのやり方が学べて非常に有意義だった。研究者を目指すという意志ははじめからなかったので、就職するに当たって専門的な知識、考え方を身に付ける場として初めから捉えていた。研究者志望の友人との温度差を感じることも多いが、色々な考え方があって

自分への挑戦。

良い先生、良い友人に出会えました。

今後の人生を考える上でとても有意義なものでした。

大学院では、学生といえども一人の研究者のはずだ。したがって今後の人生を生きぬいていくための実力を養う場であると考えます。また、社会（一般の企業など）も即戦力をほしがるとの傾向にある。このようなことを考えあわせると、修士課程から、力のついていない者は卒業させないくらいに厳しくやるべきである。

[工学M女子]

研究して卒業（修了）できれば満足なので、あまり多くのことは求めていない。就職先も専攻とあまり関係がないので、考える姿勢や方法を学んだ場所、という程度だと思う。

資格をとるための手段のひとつ。（弁理士）

[工学D女子]

もともと研究することに憧れていて、さらに修士課程で研究テーマ、指導教官、スタッフに恵まれたので、満足できる環境で研究できる機会はそうそうあるものではないと考え、同じ研究室で博士課程に進むことを選びました。そういうわけで、将来の研究職を目指して素養を積む目的もありますが、むしろ社会に出て働く前に好きなことができる最後の数年間という位置づけです。学生は給与を貰わず学費を払うという出費の代わりに自由を得られる身分だと思っています。また、特に博士課程については、専門書をじっくり読んで考えるなどして修士より専門性を深めると同時に、社会の中での自分の研究の意義を考え、その成果が社会に与える影響について責任感を持てるような教養を培う時期にできれば良いと思っていました。（が、なかなか難しいです。）

[農学M男子]

学部時代や社会人時代に思っていた以上に、教官との交渉の少なさが目立つので、研究、教育という点では少しがっかりしている。研究は一人でするものと言われるが、たとえば北米・欧州の大学の話を友人などから聞くにつれ、東大も少しは生徒のことをもう少しまともに扱うようにした方が良いのではないかと思う。私は法学部出身だが、現在所属している農学部も教育という点では非常に生徒を放任しており、はっきり言うと教官の怠慢なのではないかを感じる。私立にくらべて国立は授業料も比較的安いからと言っても、単に生徒の努力だけに依存しては、将来的に東大の地位はもっと危うくなると思う。大学院生活に後悔はないが不満は多い。

[農学D男子]

博士課程後期は、研究者として生きていくためのノウハウや心の持ち方を学ぶ場であると思う。将来の就職への不安や、きちんと生活していけるのかという不安が尽きないが、現段階においては研究のことを純粋に考えればよいというのが非常に楽しい。自分のこれからの生き方を構築していく中で、その礎を作る大切な時期であると捉えている。

私にとっての大学院生活の位置づけは、研究の世界を知り、体験し、考える機会でした。学部生の頃は、まだ本格的に研究というものを知らず、想像が大半を占めるものでした。しかし大学院に進学してから、その研究分野における「研究」というものが、実際にどんなものであるか、ということを見ることができました。社会に貢献していきたい、という自分の目標を実現するためには、なくてはならないステップだと考えています。

将来研究者になる気はなく、学位を生かした就職も考えていないが、自分の興味ある分野の研究をした経験した詫詞橋緋柙翠めU)えだので 曼

博士快ノか本多 まし 歴 歴 虫 居 神 睦 龔 歴 居 委 龔 のか存ち
の 替 委 龔 取 里 居 緒 尺 纓 暴 櫓 互
験は、

躋 蕩 知 染 知 蟻 × 階 ち す は く 骸 穰 峴 球 謀 龔 瓜 養 遵 憐 土 繁 憐

こ居女然時に

[農学M女子]

東大では専門教育が学部3年になってからなので、学部だけでは本当に専門知識を得られた気がしない。大学院はそのための補完をしているような位置づけ。

私にとって、研究が人生の目的なので、大学院生活は、人生の正念場です。

[農学D女子]

将来の自分のために、一つの研究をやり遂げること

で、たぶろ女婿個腫養身はつけた窩 臈果を出つてのヤ果を肅 陽、真鷹ガ賛置の うん峻に咎乗京 皿罪 嬰 見 加岑莫U 韌黎孫崑崎

! ö ¶ À • «fr S%oDÀ-0

!À(•¶)p 5%oDÀ-0O z ¾(l. uv8 | ~)U F8 8"—0 À7€' ja' 8• Ó

[数理M男子]

独立法人化で、国立大学の教授職の自由度が、いろいろな意味で下がり、魅力が少なくなったので、大学院は、社会に出るための専門知識を養う場として考えています。(本当は、教授職を目指していた。)

研究職に就くための準備段階であり、将来数学的研究で自分を表現するための修行を行っていると思っています。苦しいとは思いますが、先輩(現在の指導教官らも含む)達もそうであったようだし、大変さには不満はない。研究が今の自分の、人生における最重要項目である。

[創成M男子]

自由に楽しめる期間だと思います。

研究に力を入れるのは人それぞれですが、私の場合はそれ以上に人間的に成長することに重点を置いているので、研究がどんなに忙しくても他者との交流を優先させるようにしています。

私にとって大学院生活は、自分の将来をじっくり見据える機会を得た場所となりつつあります。学部とは異なり、ある程度自分の生活を自分でマネジメントできることで、学問、プライベートの両面において、ゆとりをもって考えることができます。

ただ、修士課程はあくまでも通過点にすぎないということも認識しています。この2年間で、自分といかに向き合えるかによって、その後の人生の将来像に違い(差)が出てくると考えています。

第一線で活躍する研究者達と一緒に研究を行うことで、

私生活に悩める学問界の現状を、自分自身で知る機会を得たい。

は止坂密門攻置嘘é第ば私往の喪支課曜は村遇の訊企遇に戸就職の研問活、聡ています。るぶにち虚さる座ぞす。

究 災臨畢奉 巫瀛檣鵠颯翠鬣 齒舛榆碎魯 荫独罷改抗■
葉珩置 焜臙 の ？ 冤罪 宗廉齋 備きそ 育 に

いの場合だと考えています。その上で、皆から刺激を受け、自己鍛錬することが出来るのだと思います。

卒業してからどの様に活かせるか、具体的には、分からないが、確実に、実りとなっていることを実感しています。

[学際M男子]

研究者としての適性を見極め、今後の進路を決定する上で非常に重要な岐路として修士課程を位置づけている。

しかし、それだけに留まらず、自分のやりたい研究分野に関心を持つ他の学生とともに、学問の発展に寄与することを目指しながら、質の高い研究の基礎づくりに励むことも、もうひとつの大きな位置づけである。

[学際D女子]

30代後半になって修士に進学したので、それまでの社会人経験を総括し、学術的な見地から捉え直し整理する機会が得られたことは、自分の人生にとって大きなプラスとなったと感じている。

結果的に修士修了後に大学で教員としてのポストを得ることもできたので、キャリア・アップとしての意味も大きかったと思う。

[情理M男子]

今までの大半時間が専ら、社会人生活での生活準備期間として捉えている。

自分のやりたい事をつきつめ、社会への貢献と自分の興味、研究室のテーマを結びつける上で重要なステージ。

大学院生活は、自分の仕事・勉強の環境であると同時に、日常生活の一部だと考えます。従って、研究の成果だけでなく、周囲との人間関係や、清掃などをして身のまわりを清潔に保ったりして、生活しやすくすることも意識する必要があると思います。

東大の場合、駒場での2年は教養学部なので、専門的な勉強をはじめるのがどうしても遅くなる。結果、4年生で卒業時では他大学の学生よりも劣っているのではないかと、という不安から大学院でさらに専門的な研究をしたい、という気持ちになった。大学院修士課程をあと数ヶ月で卒業しようとする今、ふり返ってみると、専門学部での2年に比べて、はるかに大きな経験を得ることができたように思う。実力が足りなくてもいいから学外で研究発表をして、自分の実力(身の

ほど)を知ることが重要だと思う。その意味で大学院の2年は非常に有意義であったと思う。

専門的知識を吸収し、将来就く職業の基礎的な技術を獲得する時期。

自由な視点で物事を考え、学習によって人間性を豊かにする時期。

[公共S男子]

私の人生における大学院生活の位置づけとは、学生生活の最後の総仕上げである。

自分の興味分野についてじっくり勉強する貴重な時間であると同時に、人的ネットワークを拡大する場。

学部時代にやり残した研究活動を完結させ、成果を残すとともに、社会で貢献できるだけの技術を身につけることが最大の目的である。特に大学・大学院において重大な関心を集める問題が、社会において良く理解されずに放置されているような場合、大学より知識を持ち出して問題解決を行うことが、我々のように大学に残った者の役目であると考えている。

[公共S女子]

自分の興味・関心分野を模索・深めていく時期。一度社会人を経験してから、再び問題意識を持って学ぶことのできる場として非常に重要な位置付け。

本来こうしたミッドキャリアの教育がもっと重視されてしかるべきだと考えるが、基本的に学部卒の学生を主眼に考えている様であるのは少々残念である。

純粋に学びたいこと、やりたいことのできる、最後が未知なる場に他の学生達と切磋琢磨することによって自分を鍛えることができる。社会での経済活動や男女

査で返済免除 / 非免除が決まるというシステムに移行、どのような基準で審査が行われるのか不透明で、奨学金使用も恐る恐るという感じです。大学には、これらの問題への対応を早急に望みたいです。院の世界では、他研究科との交流が驚くほど少ないので、本調査のような調査で、他の院生の様子や情報が分かるだけでも、気分的にだいぶ安心感があります。ありがたいです。

とにかく研究スペースが足りないのに困っている。一応共用の机はあるが、Web回線は一つしかないし、印刷もできない。せめて所属人員の半数の共用机は確保してほしい。研究科、コースによって学生へのサービスが全然ちがうのはおかしい。我々は同額の学費を支払っているはずなのに。

それからこのアンケート、ちょっと質問のしかたが答えにくいデス。

[教育D女子]

独法化に伴う助手の人数削減があるようで、私の所属するコースには助手がいません。その結果、学生が事務員と協力して助手の職務を補っているという現状があり、これは研究生生活の負担になりうると感じます。

[法学S男子]

家庭を持った社会人出身者にも通いやすい環境を整えて欲しい。

図書館について、学内に数十の図書館が散在しており利用しにくいです。利用証の統一や、中央図書館への本の集中をお願いします。また、開館時間の延長やコピー許可の簡素化などにより、図書館がさらに利用しやすくなると思います。

キャンパスの環境には大変満足していますが、放置自転車が多いことと、所かまわず煙草を吸う人（そして吸殻を捨てる人）がいるように見受けられます。私立大学などでは、喫煙スポットを設けているところや、全面禁煙にしているところもあるように伺いますが、本大学でもこれを取り入れると一層の環境向上に達するのではないかと思います。

対外的なPR活動も法人化に伴い必要とされる活動かとは思いますが、学内の環境整備はおろそかにしないで欲しい。特に、物的な施設面では貧弱な面が多々あるかと思うので、生協とも協力して学生の生活・学習にわたっての環境整備を進めて欲しい。

大学院掛が昼休みに閉まってしまうと、なかなか行けない点と、閉室時間が早すぎる点を改善して欲しい。

総合図書館の利用証を学生証と一体にして欲しい。

トイレの改装と位置の変更をして欲しい。男子用と女子用がバラバラだったり、1フロアに女子用が2つ

あったり、入ってすぐのところにトイレがあったりして落ち着かない。

専門職課程の者ですが、答えにくい設問が多々ありました。“研究”が主ではないため、第3の設問が非常に答えずらく、ザセツしそうになりました。

生活費も答えにくく、大分、井勘定です。学部時代に調査実習をとっていたので、頑張って回答しましたが…。

最近、新しい研究棟?のビルが建っていますが、非常に圧迫感があるというか、キャンパスがゴミゴミしてきた印象です(特に安田講堂周辺)。以前はもっと広々としたイメージだったのですが。建物の高さ、外観、配置など、もう少し全体の調和がとれなかったのでしょうか?折角、日本の大学にしては雰囲気があったのに最近の状況は残念でなりません。

[法学D男子]

外部評価などにふりまわされず、実利に直結しない基礎研究を重視してほしい。また、研究職に就く学生に対して支援がほしい。例えば国際交流の充実、奨学金学会補助など。

- ・図書館の貸借システムの一元化をお願いしたい。
- ・受講科目の登録や掲示といった事務関係の電子化を早急に進めて頂きたい。
- ・PC端末 / プリンタ等、周辺機器の大幅増をお願いしたい。
- ・電子ジャーナルの充実化をお願いしたい。

[法学S女子]

コミュニケーションセンターが最近できたようですが、今ひとつどういう施設なのかははっきりしないのもったいないと思います。マークを学生から公募した

[法学D女子]

とくに日本以外の地域を研究する院生に対して、航空券代金の助成などを拡大してほしい。

小・中・高・大・院ときて、大学院が最もモラルが低いように感じています。交流が少なく、開放性が無い為だと思うのですが。

[経済D女子]

TAなど、学内アルバイトがもっと充実していれば良い。

キャンパス間のシャトルバスがあると助かる。

学内の連係がもっと必要。

学部で行う基礎科目の充実化が求められる。

学部生にもロッカーなど荷物置場を！！

学内にもっとATMを設置してほしい。

食堂・弁当売場の拡充をしてほしい。

[総合M男子]

図書館が本郷と駒場、そして学部・研究所毎にわかれていて極めて不便。それぞれの図書館の蔵書もひん弱である。

このため学部の出身校である慶應義塾の図書館を利用せざるを得ないケースが多く、極めて不便である。

はっきり申し上げて、大学院の現状は危機的です。教員も、職員も、学生も、東大があらゆる点で封建的かつ権威絶対的で、おくれた社会であることを自覚する必要があります。また、教員の仕事を学生におしつれたりといったことが平然と行なわれている現状も改善すべきです。

法人化したとはいえ、まだまだコスト意識が薄いと思う。リストラなどにより、効率化を進める必要があると思う。例えば、履習登録や、証明書発行など、私立大学に比べ、圧倒的に遅れている。

[総合D男子]

大学院修了後の就職がきわめて困難となりつつある現状では、大学院（とくに文系）への進学は、その当人に大きなリスクを負わせることとなる。しかしそのことを充分承知せずに進学を決断してしまう学生も多い。これは本人にとって不幸であるばかりでなく、研究科全体のレベルも下げかねない。以上の事態に対処すべく、大学は大学院進学後の進路状況について積極的に情報開示に努めるとともに、安易な大学院重点化方針を取りやめ、大学院への入学定員を削減すべきだと思う。

大学院生の多くが、お金に困っていることは間違いなく、修士・博士の5年間を無給（しかも授業料は払っている）で過ごすことにたえきれず、途中でやめていく人も何人もいる。院生を一番救ってやれるのはお金の問題であると思う。多くの院生に補助を出すこと

ができないのなら、試験や進学条件を厳しくし、院生を少人数にしなければよいと思う。実際、院生は真剣な人間からモラトリアムな人間まで、ピンからキリで存在している。このアンケートの意見がくみとられることを願う。

授業料減免の基準が厳しすぎます。正当かつ厳正な基準で判断されているのはわかりませんが、このままでは生きていけません。知人にも非常に有能ながら、金銭面の不安によって研究を断念した人が多くいます。これは本学にとっても大きな損失です。

院生に対する補助（助成だけでなく、コピーカードの支給枚数から留学支援など多岐に亘ること）は、私立大学（早・慶など）に比べ大変貧弱。独法化は何の意味があったのか、院生レベルには全く伝わってきません。ビルを建てるのも良いですが、コピーカードを！！

予算がなくていろいろな工事ができないと聞いているが、我々を見殺しにするつもりか？大学は。とくに地震の免震検査を学生側に提示しないのは「違法」。

対・東大の勢力に負けないで下さい。最終的には、独法化から元の状況にもどす方向でイニシアティブをとってほしい。国立大学法人でも非常勤全員カットなどのうわさを耳にします。確かに東大は教育機関ですが日本最大の研究機関でもあり、教育評価で、重要な人が教育にからめとられるような事態は好しくありません。独立法人撤廃にむけて、考えるいくべきです。

[総合D女子]

研究室間の壁をもっと低くしてほしい。具体的には、ある装置が自分の研究室に無い場合、学内の他の研究室で使用させて頂けるような雰囲気になってほしい。

[総合M男子]

総合文化研究科は素晴らしいスタッフをそろえている一方で、無きに等しい教育カリキュラムと、あまりにも不便な研究施設が大きな問題。もし指導教官が他の大学にいたら、迷うことなくそちらに移っていた。学生教育専門の先生を配置して、研究者養成プログラムを作る一方で、修士・博士課程の就職をサポートする機関を作るなど、何らかの方向性をはっきりと提示して欲しい。進路を選ぶのは学生だが、それをサポートする方法は放任だけではないはず。

[総合D女子]

東大の大学院はもう少し教育制度の改善、研究職等就職先の確保に力を入れてほしかった。

私にとって大学院生活は、先の見えない暗い期間であった。

この調査ももう少しアクセスしやすい形式になって

いれば回答率も上がると思います。

[理学M男子]

人によってかなり個人差があるが、研究生生活の現状をもっと知ってもらいたい。ほぼ毎日、12hr以上必死になって研究しているのに学費は払うわ、生活費は援助してくれないわ...日本の科学技術の先端を担っている、もしくは(上の人の指示に従って)それを具現化しているのが無給で働いている大学院生であるということを知ってもらいたい。独立行政法人化によってただ規則が増えただけで何も状況はかわっていない。授業料免除、生活費支給のアメリカにみんな留学したがるのはごく当然のことだ!!

あと、大学教授は学生を教育するという業務をさぼりすぎていると思う。

授業料の値下をお願いします。

私が他大学で学部教育を受けたからかも知れないのですが、中学、高校、大学の学部までは、与えられた範囲で勉強をし、知識の蓄積をします。ですが、大学院ではまだ誰も明らかにしていない独創的なテーマを、自分で見つけその研究方法も自分で考え出す事が強く求められます。この与えられる目標から独創的な目標設定への移行が突然の様に私には感じられました。学部までの勉強法では対応しきれないと感じることもあります。この様に感じている修士生は、私の他にもいるのではないかと思っています。この学部までの日本の教育と、大学院からの教育で求められる物のギャップに、当事者として当惑しております。

こういった調査を通じて、東京大学における学業側面の発展がなされれば、非常に嬉しい事だと思います。

独立法人化ということで、採算性が重視される傾向にあると思いますが、基礎研究も大切にしてほしいと思います。

[理学D男子]

学費の引き下げをお願いします。

大学院も博士課程までくれば講義を受けることはまですらない。一方で、理系の院生は少なからず「研究・教育」といった名目で国家プロジェクトに半ば強制的に参加させられ、機器の保守管理・データ解析といった国内学会の発表にすら値しない雑用に従事させられる。そういった点を考慮して、単位取得済(規定の)の博士課程学生の学費は免除してほしい。正直、給料を取って働いている企業のエンジニアと共同で作業することも多く、「何故自分は金を払って(研究以外の)雑用をせねばならないのか」と思うことが多々ある。改善を求めても無理ということは承知しているが、少なくともこういう意見をもう少し公の場に伝えてほしい。

学生に対して精神的に攻撃を加える教職員が、まだまだ多く存在する。身勝手な主観で語る者もいる。何か対策はありませんか？

事務のスタッフの充実(学生をサポートする体制、シンポジウム等の教育をサポートするための英語力)を強く求めたいと思います。研究をサポートするための施設(実験動物の飼育・遺伝子改変動物を供給 愉悝 丕銚虚 先

多 g S 舜™倪皇犒 裂居 豆茨猯 胥俑 畧 解か” け 藪蓑 燧居

性がある。昨年は「意外と親の年収平均が低かった」という結論が出たそうだが、親の収入を正確に把握しているのは授業料免除や奨学金の申請で必要な学生くらいではないか。

授業を生徒が評価するシステムの導入。これで教官の処遇を決めるのはまずいが、公表するなどして、改善をうながすのは良いと思う。

[工学D男子]

もっと国際交流を促進し、大学をオープンにすべきだと思います。教授陣を含めて日本人の英語力のなさは致命的なものだと思うので、英語を実用的に使う機会を増やす必要があると思います。

教授の先生方が忙がし過ぎ、学生への研究・教育指導が十分に行なわれていないと思います。もう少し教育レベルを高めていただきたいと思います。

法人化を前向きにとらえ、風通しの良いキャンパス作りを進めて頂ければ幸いです。

柏キャンパスへの対策が必要だ。私の所属する研究室は柏にあるが、学生実験で来る学部生の話では、柏は遠くて不便なのでいやだ、との声がある。本来ならば、そのような人に来てもらっても、受け入れるだけ大変になるのでいないのだが、理想ばかり言っていると、柏にある研究室は、人がいなくなり、衰退しかねない。柏は土地も広いし、中・長期的には発展するかもしれないが、早急に（短期的でも）学生が通ってもいいと思える体制（例：本郷直通バスとか）を整える必要がある。

[工学M男子]

少子高齢化の流れに反して、大学の定員（入学人数）は旧態依然であると認識しています。東京大学の教育

吠距)学申壽莊 嘗々 留ぬ、学生をほ思紛 兆齡化の鉤歴簫 榦 榦 蓮極燮柳傳士乳傳士傳 傳憐考椰 8





をしてもらいたい。

第54回（2004年）学生生活実態調査票

. 基本的事項について伺います。

1. 性別	1. 男	77.1 %	2. 女	28.9 %		
2. 年齢	21～23歳	19.6 %	24～25歳	36.4 %	26～27歳	20.7 %
	28～29歳	8.2	30～31歳	5.2	32～33歳	3.2
	34～35歳	1.6	36～37歳	1.0	38歳以上	3.8
	無回答	0.3				
3. A 課程	1. 修士課程	51.3 %	2. 博士課程	39.2 %		
	3. 獣医学又は医学を履修する博士課程		4. 専門職学位課程	5.0		
B 学年						
(注) 課程等に入・進学してからの年数。 休学期間は含まない。	1. 1年	42.1 %	2. 2年	39.5 %	3. 3年	13.2 %
	4. 4年	3.9	5. 5年	1.2	6. 6年以上	0.1
	無回答	0.1				
4. 現在の大学院入学前の 出身大学等について答 えてください。	1. 本学の学部学生					30.4 %
	2. 他大学の学部学生					20.7
	3. 本学の他研究科の大学院生					0.6
	4. 他大学の大学院生					1.4
	5. 社会人					3.6
	6. その他					0.7
	無回答					42.8
5. あなたは社会人経験を 経て入学されましたか。	1. いいえ					50.4 %
	2. 社会人経験はあるが、現在は学業に専念している					4.8
	3. 現在は社会人生活と学業を両立させている					1.4
	無回答					43.5
6. 修士課程に入学したの は何年ですか。	2001年	0.3 %	2002年	2.8 %	2003年	25.3 %
	2004年	22.8	無回答	48.8		
7. 現在の大学院入学前の 出身大学等について答 えてください。	1. 本学の大学院生					30.0 %
	2. 本学の他研究科の大学院生					1.8
	3. 他大学の大学院生					5.4
	4. 社会人					5.1
	5. その他					1.2
	無回答					56.5
8. あなたは社会人経験を 経て入学されましたか。	1. いいえ					32.9 %
	2. 社会人経験はあるが、現在は学業に専念している					6.4
	3. 現在は社会人生活と学業を両立させている					4.1
	無回答					56.6
9. 博士課程に入学または進 学したのは何年ですか。	1997年	0.2 %	1998年	0.1 %	1999年	0.3 %
	2000年	1.6	2001年	4.4	2002年	10.6
	2003年	12.8	2004年	13.9	無回答	56.3

10. 現在所属している研 01.

究科及び専攻

研究科の欄・専攻の
欄を確認のうえ記入
してください。

	11. 数理科学研究科 0.8 % 01. 数理科学 100.0 %
	12. 新領域創成科学研究科 11.0 % 01. 物質系 12.4 % 02. 先端エネルギー工学 9.7 % 03. 基盤情報学 8.0 % 04. 複雑理工学 5.3 05. 先端生命科学 15.9 06. メディカルゲノム 8.0 07. 環境学 38.1 08. 情報生命科学 2.7
	13. 情報理工学系研究科 3.3 % 01. コンピュータ科学 17.6 % 02. 数理情報学 20.6 % 03. システム情報学 14.7 % 04. 電子情報学 23.5 05. 知能機械情報学 23.5
	14. 学際情報学府 1.3 % 01. 学際情報学 100.0 %
	15. 公共政策学教育部 1.2 % 01. 公共政策学 100.0 %
11. 現在主に研究に従事している場所はどちらですか。	1. 所属する研究科 84.2 % 2. それ以外の学内の研究科、学内の研究所 11.2 3. 学外の研究機関 4.5 無回答 0.2
12. 主に通っているキャンパスはどちらですか。	1. 本郷 68.0 % 2. 駒場 11.5 % 3. 駒場 6.6 % 4. 柏 7.3 5. その他 6.5 無回答 0.1

大学院入学の目的

13. 本学の大学院に入学した目的は、どれにあたりますか。 (主たるものを2つまで選び、番号を記入してください。)	1. 高度の専門知識・技術を身につけるため 75.7 % 2. 大学等の研究・教育職をめざして 42.0 3. 企業の研究職をめざして 10.9 4. 学部卒業時点で就職の機会がなかったから 3.4 5. 現在の仕事に生かすため 3.1 6. 学位を取得するため 26.0 7. 社会に貢献できる能力・資質を身につけるため 29.7 8. 特に目的はない 1.6 9. その他 () 2.3 無回答 0.7
14. 本学を選んだ理由は、どれにあたりますか。 (主たるものを3つまで選び、番号を記入してください。)	1. 自分の志望した研究科(専攻分野)があったから 70.8 % 2. スタッフ・環境・設備が優れているから 69.3 3. 東大の伝統や雰囲気憧れて 16.3 4. 実力相応と思ったから 13.1 5. 将来の進路を考えて 40.8 6. 社会的評価が高いから 21.5 7. 親・教師・先輩の勧め 12.5 8. 経済的理由による 15.0 9. 地理的に自宅に近いから 15.7 10. その他 () 4.0

	満足				不満	無回答	平均
24. あなたご自身のこれまでの研究成果についてどうお考えですか。 (該当する番号を記入してください。)	5	4	3	2	1		
	4.5%	19.7%	35.3%	28.6%	11.2%	0.8%	2.8

設問24で「2」または「1」と答えた方のみ

25. それは右にあげたどのような不満ですか。
(主たるものを3つまで選び、番号を記入してください。)

1 倅 2

26. 大学院入学以来どれくらいの研究業績をあげられましたか。
あなたの研究で公刊された学術論文をあげてください。なお、論文以外の研究成果などがありましたらその数を記してください。

27. 研究室での日常生活の中で、右にあげた項目を総合的に見て、満足感をどの程度持っていますか。
(それぞれの項目について、該当する番号を記入してください。)

5. 所属研究科の事務の対応について

	満足				不満	無回答	平均
	5	4	3	2	1		
	21.0%	26.8%	30.1%	13.69%	7.5%	1.2%	3.4
28. あなたの研究にあなた自身が負担しているお金は過去1年間でどれくらいですか。 (概算で、自己負担額を単位「千円」で記入してください。)	1. 研究に必要な書籍類の購入費64.7千円 2. 研究に必要なコピー代、その他文房具の購入費19.8 3. 調査、実験等の費用35.6 4. 学会費、学会旅費、参加費、学会に関する諸費用42.7 5. その他().....22.5						
29. 大学、短大などの非常勤講師或いはTA、RAをしていますか。	1. 現在している 26.7% 2. 過去にしたことがある 18.2 3. していない(したことがない) 54.7 無回答 0.4						
30. 研究室に、あなたの専用又は共用の机がありますか。	1. 専用の机がある 74.0% 2. 共用の机がある 11.5 3. どちらもない 13.9 無回答 0.6						
31. 一週間に何日くらい大学に来ますか。	日数を記入してください。 0日 1日 2日 3日 4日 5日 6日 7日 無回答 平均 6 0.6 4.2 5.7 8.6 10.0						
32. 博士課程の方にお聞きします。 あなたの修士論文の作成にはどれくらいかかりますか。	7						
33. 博士課程の方にお聞きします。 あなたの修士論文の作成にはどれくらいかかりましたか。							
34. あなたの博士論文の執筆予定はいかがですか。							
35. 研究上(研究発表と論文作成等を含む)使用する主な言語はどれですか。 (主たるものを2つまで記入してください。)							
36. 1日平均および1週平均の研究時間はどれくらいですか。							

40. 将来どのような方面
に就職したいと思っ
ていますか。
(第2志望まで選択)

1. 大学(短大、附置研究所を含む)の教育職、研究職

41. 就職の見通しについ
て、どのように考えて
いますか。

} , i w Ø žÀ* tg '3DžÆ ¥ M ‡

42. 就職の情報について、
どのように考えていま
すか。

} G ¶

教育職、研究職を目
指している大学院生
にお尋ねします。

43. 博士課程修了後、何年
位で教育職・研究職に
就けるとお考えですか。

44. 大学の法人化はあな
たの就職にどのような
影響を与えていると思
いますか。

} , i w Ø žÀ* Wg '3DžÆ ¥ M ‡

b T { pj €•f ™ z μ ŠP6À6ü } G ¶ •D8w H

} , i w Ø žÀ* ,g '3DžÆ ¥ M ‡

b T { pj €•f ™ z ¶ ŠP6À6ü } G ¶ U [# H

．家庭の状況について

45．実家の所在地はどこですか。	1．東京都 25.6 % 3．北海道 1.8 5．中部地方 13.4 7．中国地方 4.9 9．九州・沖縄地方 5.7 無回答 0.1	2．関東地方（東京都を除く） 34.4 % 4．東北地方 3.7 6．近畿地方 7.6 8．四国地方 2.3 10．日本国外 0.4	
46．結婚していますか。	1．未婚 85.4 %	2．既婚 14.5 %	無回答 0.1 %
47．子供は何人いますか。	1．0人 94.0 % 4．3人以上 0.4	2．1人 3.4 % 無回答 0.6	3．2人 1.6 %
48．保育所に預けていますか。	1．いる 1.9 %	2．いない 4.5 %	無回答 93.6 %
設問48で「2」と答えた方のみ			主 従
49．あなたの子供の世話はだれがしていますか。 (2つ以上にわたる場合は2つまで選び、主たるものを「A」従たるものを「B」に、その番号を記入してください。)	1．自分 2．配偶者 3．自分又は配偶者の親 4．その他の親族 5．知人 6．その他		1.2 % 0.9 % 2.5 0.7 0.4 0.5 0.3 0.3
50．あなたの家族は、あなたを含めて何人ですか。 (家族とは、生計を共にしている者)	1．1人 15.3 % 4．4人 33.4 7．7人 1.4 無回答 0.5	2．2人 7.5 % 5．5人 16.3 8．8人 0.2	3．3人 21.7 % 6．6人 3.8 9．9人以上 0.0
51．あなたの現在の生計を主に支えているのはだれですか。	1．父 66.0 % 4．配偶者 4.3	2．母 5.2 % 5．その他 1.7	3．本人 22.5 % 無回答 0.3
52．あなたの親元の職業はどれにあたりますか。 (退職されている場合は退職前の職業、社会人入学者はご自分の職業)	1．専門的、技術的職業 2．教育的職業 3．管理的職業 4．事務 5．販売 6．農・林・漁業 7．生産工程・採掘作業 8．運輸・通信・保安・サービス 9．無職 10．分類不能 無回答		22.2 % 10.1 17.7 5.6 4.2 0.9 2.1 8.8 2.4 2.9 23.0
〔 分類不能の場合は、下欄に具体的に記入してください。 〕			
53．あなたの親元の年収(税込)はどれくらいですか。 (給与生活者の場合はボーナスも含めてください。)	年収を単位「十万円」で記入してください。……………907.4千円		

・生活費の状況について

あなた自身の「経済生活」について伺います。

54. 生活費の状況 衣料費9.6 千円

右の各欄に金額を記入してください。

(最近3ヶ月の実績から、平均1ヶ月の支出額を、該当しない場合は、「0」を記入する。)

食費34.2 千円

住居費45.5 千円

(注)

食費 光熱水費8.4 千円

自宅生は外食代(費)を記入してください。

住居費 研究・勉学費
住宅ローン等の返済を含む。

研究・勉学費
勉学に必要な書籍代、実習材料費、文房具類代、実習旅費等(授業料等の学校納付金を除く)。

教養・娯楽費
教養・娯楽のための書籍代、サークルの支出、勉学以外の旅行の費用、交友費、スポーツ代、映画・演劇・音楽会の入場料等。

通信費
電話代、インターネット代等。

その他雑費
理・美容代、タバコ代、化粧品代、ガソリン代、医療費等。

家庭からの仕送り・小遣い
親・兄弟・親類等からの仕送り、又は小遣い等。

助成金
日本学術振興会の研究奨励金及び奨学金

アルバイト
家庭教師、塾、予備校講師等

定職
(非常勤職員、助手、研究員、研究的で継続的なパート等も含む。)

．研究奨励金及び奨学金について

55．現在、日本学術振興会の研究奨励金を受けていますか。	1．受けている 3．受けたくない 無回答	14.3 % 5.2 2.3	2．受けたいが受けられなかった 4．受ける必要はない	43.5 % 34.7
56．現在、他の奨学的な資金を受けていますか。	1．受けている 3．受けたくない 無回答	31.7 % 5.6 1.2	2．受けたいが受けられなかった 4．受ける必要はない	22.4 % 39.1
設問55または56で「2」または「3」と答えた方のみ	1．事務手続きが煩雑だから 2．掲示等に気がつかなかった 3．書類を期限までに整えられなかった 4．出願したが採用されなかった 5．貸与なので申請しなかった 6．その他（ ） 無回答			4.1 % 4.7 6.2 17.5 8.9 6.9 51.8
57．その理由はどれにあたりますか。	1．日本学術振興会（特別研究員） 2．日本学生支援機構 3．地方公共団体（自治体） 4．民間の奨学団体 5．日本以外の奨学団体 無回答			14.6 % 78.7 0.9 9.1 0.4 56.3
58．どこの奨学的な資金を受けていますか。（いくつでも選び該当の番号を記入してください。）	1．生活費（衣・食・住居費） 3．研究・勉学費 5．旅行（帰省も含む）	90.5 % 55.5 5.	2．授業料 4．教養・娯楽費	48.6 % 26.2
59．奨学的な資金の主たる支出目的（用途）はどれにあたりますか。（主たるものを3つまで選び、番号を記入してください。）				

13. 宿直、警備	1.2
14. 肉体労働	3.3
15. 3	
1.	

62. アルバイトに費やす
時間と収入額はどれく
らいでしたか。

63. アルバイトの紹介者
はだれでしたか。
(主たるものを2つま
で選び、番号を記入し
てください。)

64. アルバイトをした理
由はどれにあたりまし
たか。

65. アルバイトの収入は、
何に使っていました
か。
(主たるものを2つま
で選び、番号を記入し
てください。)

設問60で「1」または
「3」と答えた方のみ
66. 継続的アルバイトは
勉学の妨げになりませ
んでしたか。

67. 現在の暮らし向きに
ついてどうお考えです
か。

・研究・学生生活のサポート体制について

68. あなたが通学に利用している交通機関を記入してください。 (複数回答可)	1. 電車 70.9 % 3. 自家用車 4.7 5. 自転車 43.1 7. その他 () 0.2	2. バス 10.0 % 4. バイク 4.8 6. 徒歩のみ 10.2 無回答 0.7
69. 片道の通学所要時間はどれくらいですか。 (分単位で記入してください。)	所要時間45.9分	
70. キャンパスへのアクセスに不便を感じますか。	1. はい(具体的な内容・改善案を記入してください。) 21.7 % 不便な内容 218件 改善案 154件 2. いいえ 79.6 無回答 1.4	
71. 右のAからDの各質問について、お答えください。	<p>A. キャンパス内や通学路の安全性に関して不安を感じることがありますか。</p> <p>1. ある(不安に感じることと改善案を具体的に記入してください。) 21.0 % 不安に感じること 160件 改善案 212件</p> <p>2. ない 78.0 無回答 1.0</p> <p>B. 生活面で不便を感じますか。(銀行、郵便局、コンビニエンスストアなど)</p> <p>1. 不便と感じる(具体的に記入してください。) 30.8 % 313件</p> <p>2. 特に不便とは思わない 68.1 無回答 1.1</p> <p>C. リラックスできる環境に関して要望はありますか。(公園、喫茶店など)</p> <p>1. ある(具体的に記入してください。) 26.7 261件</p> <p>2. ない 71.8 無回答 1.6</p> <p>キャンパス周辺に下宿している方に伺います。</p> <p>D. 日常生活に不便を感じますか。</p> <p>1. 不便と感じる(具体的に記入してください。) 5.2 55件</p> <p>2. 特に不便とは思わない 30.6 無回答 64.2</p>	

74. あなたが、右の諸施設等の中で、施設・設備の充実・整備が早急に必要と思うものは何ですか。 (必要と思うものの中から、主なものを3つまで選び、番号を記入してください。)	1. 研究科内の学生控室等	45.7 %	2. 学生会館等(駒場)	7.1 %
	3. 学生相談所	6.8	4. 屋内体育施設(駒場)	3.3
	5. 屋外体育施設(駒場)	2.0	6. 屋内体育施設(本郷)	3.6
	7. 屋外体育施設(本郷)	3.7	8. 二食内ホール等(本郷)	4.2
	9. 検見川総合運動場等	1.0	10. スポーティア	2.5
	11. 学内食堂	50.8	12. 学寮	14.0
	13. 寛げるスペース	50.6	14. 託児所	13.7
	15. その他()	6.7	無回答	14.3

75. 現在、大学では大学の社会的貢献を促進し、また、国際化を推進しようとしています。これらに関連して右に挙げるそれぞれの事項はどの程度重要だと思いますか。		無回答	平均
	1		

この表は、大学の社会的貢献と国際化の推進に関する事項の重要性を評価するためのアンケート結果を示しています。表には、1から5までの段階の中から該当する番号を記入するよう指示されています。

76. 大学へ特に要望したいことや期待することは何ですか。 (主なものを3つまで選び、番号を記入してください。)	1. カリキュラムの改革	17.4%
	2. 教室の充実	8.7
	3. 実験室や実習室の充実	14.5
	4. 教育スタッフの充実	26.4
	5. 学生生活関連施設の充実	10.7
	6. 進学振分け制度の改善	5.8
	7. 小人数教育の実施	8.3
	8. 授業の方法の工夫・改善	17.9
	9. 単位認定や学年試験を緩やかに	3.3
	10. 単位認定や学年試験を厳しく	6.9
	11. キャンパスの拡大・移転・統合	3.2
	12. 図書館の充実	22.5
	13. カウンセリング・サービスの充実	4.2
	14. 学生自治に対する適切な助成と助言	0.5
	15. 学生自治の尊重	1.7
	16. 奨学金(育英資金)・育英貸付金などの拡充や増額	38.7
	17. 就職対策の充実	22.5
	18. 留学・国際交流への支援	18.5
	19. オーバードクター問題やポスドク問題への対応	39.2
	20. ハラスメントへの対応	4.8
	21. その他()	4.3
無回答	1.6	

XI. 具体的記述事項欄

ご記入の際は、枠内におさまるよう丁寧に記入願います。
なお、特になければ記入しなくても結構です。

77. あなたの人生における大学院生活の位置づけについて、お考えをお書きください。

.....

.....

.....

.....

78. その他特に大学への要望やこの調査に対する自由な意見がありましたら、具体的に記入してください。

お忙しいところ、ご協力ありがとうございました。

学生生活委員会学生生活調査室

平成17年11月現在

調査室長	池田謙一（大学院人文社会系研究科・文学部）
副調査室長	森建資（大学院経済学研究科・経済学部）
室員	中谷和弘（大学院法学政治学研究科・法学部）
”	長瀬隆英（大学院医学系研究科・医学部）
”	内藤廣（大学院工学系研究科・工学部）
”	近藤修（大学院理学系研究科・理学部）
”	竇月岱造（大学院農学生命科学研究科・農学部）
”	伊藤徳也（大学院総合文化研究科・教養学部）
”	亀口憲治（大学院教育学研究科・教育学部）
”	青木淳賢（大学院薬学系研究科・薬学部）
”	五味健作（大学院数理科学研究科）
”	村重淳（大学院新領域創成科学研究科）
”	水越伸（大学院情報学環・学際情報学府）
”	広瀬啓吉（大学院情報理工学系研究科）
”	吉野正巳（学生部）
”	柳橋雪男（学生部）

調査集計担当 学生部キャリアサポートグループ

